

I 2019 年度 事業概要

2019 年度 一般社団法人日本私立看護系大学協会社員総会報告

開催日時 2019 年 7 月 12 日（金曜日）午前 10 時 30 分から午後 0 時 40 分

開催場所 東京都千代田区九段北 4 丁目 2-25 アルカディア市ヶ谷（3 階富士の間）

出席社員数 総社員数：578 名、総社員の議決権数：578 個

出席社員数：515 名（委任状による者を含む。）、出席社員の議決権数：515 個

審議事項

【第 1 号議案 2018 年度事業活動報告及び決算・監査報告に関する件】

1) 2018 年度理事会報告

議長大島弓子会長より、2018（平成 30）年度年次報告書に基づき、理事会報告があった。

2) 2018 年度事業活動報告

島袋香子副会長より、2018（平成 30）年度年次報告書に基づき、「大学教育委員会」、「研究活動委員会」、「国際交流委員会」、「大学運営・経営委員会」、「渉外委員会」、「広報委員会」の事業活動報告があった。

3) 収支決算・監査報告

長澤正志財務担当理事より「2018 年度日本私立看護系大学協会決算書」、「正味財産増減計算書」、「貸借対照表」、「財産目録」に基づき 2018（平成 30）年度決算報告があった。続いて、鎌倉やよい監事より 2019 年 5 月 20 日に実施した 2018（平成 30）年度の監査報告があった。

議長により、その承認を求めた結果、497 個の賛成を得て承認された。

【第 2 号議案 一般財団法人日本看護学教育評価機構への協力に関する件】

一般財団法人日本看護学教育評価機構への協力について提案するため、定款第 17 条により本議案にかぎり議長は河口てる子副会長が代行した。大島弓子会長より「一般財団法人日本看護学教育評価機構への協力について、経緯と提案内容」、「日本看護学教育評価機構への本協会の協力についての広聴会・質疑応答」、「日本看護学教育評価機構への本協会の協力についての広聴会・アンケート結果」に基づき説明があった。「日本看護学教育評価機構に協力はするが、一時金の拠出は行わず、具体的な協力の方法は今後理事会において検討する」ことが提案され、下記のとおり審議された。

<質疑応答>

- ・「日本看護学教育評価機構へ私立看護系大学が何校加入したのか、現時点では把握できておらず、日本看護学教育評価機構のお金の運営について不明瞭である。」との意見があった。
- ・「第 3 者機関である評価機構へどのような協力ができるのか分からない。協力の内容を検討した上で提案してほしい。」との意見に対し、大島弓子会長より「2019 年 3 月 21 日に、広聴会を開催し、『一時金 1,500 万円の拠出と受審料 10 万円の援助』する案について、具体的に理事会で検討中であることを説明した。その審議を踏まえ、理事会で検討を重ねてきた経緯がある。協力するという合意を社員総会で得て、日本看護学教育評価機構の動向を見つつ理事会において検討をしていきたい。」と説明があった。
- ・「日本看護学教育評価機構の主旨には賛同するが、正しく運営されるか、私立看護系大学協会として提言や提案も含めた協力としてほしい。」との意見が出された。

議長により、その承認を求めた結果、393 個の賛成を得て承認された。

報 告 事 項

1) 2019 年度事業活動計画及び予算に関する件

議長より、2019 年度重点事業について報告があり、次回役員候補者選出選挙について説明があった。

島袋香子副会長より、「2019 年度一般社団法人日本私立看護系大学協会委員会等活動計画一覧」、「2019 年度事業活動計画書」に基づき報告があった。また、長澤正志財務担当理事より、「2019 年度一般社団法人日本私立看護系大学協会予算書」に基づき予算について報告があった。

2) 規程等の整備に関する件

山口桂子業務執行理事より、役員候補者選出規程、委員会規程、研究助成事業規程の整備について報告があった。

委員会規程第 3 条について「当該事業担当理事によって委員会が構成されることが基本なのか」との会場からの質問に対し、議長より「現状では、必要に応じ委員を委嘱して委員会活動をしているが、委員会の中に理事に加え委員を入れた方がよいか、今後の地区活動も視野に入れ検討したい。」と説明があった。また、河口てる子副会長より「以前、委員を委嘱し委員会を広く構成していた時は、費用もかかり意思決定がスムーズにいかず不都合な面があった。2019 年度は、委員を減らし理事主体で委員会活動を行っており、今のところ支障はない。しかし少しスリム化を進めすぎた感があり、2019 年度は委員を増やした委員会もある。」と説明があった。

3) 諸機関との関連事業に関する件について

河口てる子副会長より Nursing Now キャンペーン事業について説明があり、ロゴの使用と発信について説明があった。また、議長より文部科学省「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会」、「一般財団法人日本看護学教育評価機構」へ日本私立看護系大学協会会長として参画していることの報告があった。

そ の 他

2020 年度の社員総会日程と場所について

議長より 2020 年 7 月 10 日（金曜日）アルカディア市ヶ谷にて開催予定と説明があった。

以上をもって本日の議事・報告事項が終了したので議長は閉会を宣した。

2018（平成 30）年度一般社団法人日本私立看護系大学協会決算書

（2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日）

1. 一般会計予算

（収入）

（単位：円）

科 目	2018年度予算	2018年度決算	差 異	執行率	備 考
会 費	57,700,000	57,700,000	0	100%	会 費@ 300,000 × 187 校（9 校（学部）増） 入会金@ 200,000 × 8 校 ※ 10 校（学部）のうち 2 学部は同一法人入会済みのため免除
銀 行 利 息	1,000	396	604	40%	普通預金
預 り 金	2,200,000	2,386,931	△ 186,931	108%	源泉所得税、住民税、社会保険料
（ 収 入 小 計 ）	59,901,000	60,087,327	△ 186,327	100%	
前 年 度 繰 越 金	31,333,202	31,333,202	0	100%	現金及び普通預金
合 計	91,234,202	91,420,529	△ 186,327		

（支出）

科 目	2018年度予算	2018年度決算	差 異	執行率	備 考
事業費	45,098,000	38,083,415	7,014,585	84%	
大 学 教 育 委 員 会	4,201,000	3,290,071	910,929	78%	
研 究 活 動 委 員 会	1,331,000	955,096	375,904	72%	
研 究 助 成 事 業	7,298,000	6,682,203	615,797	92%	
国 際 交 流 委 員 会	1,157,000	566,713	590,287	49%	旅費削減（Web 会議のため）
大学運営・経営委員会	2,112,000	1,803,099	308,901	85%	
渉 外 委 員 会	500,000	25,548	474,452	5%	委員の削減と諸団体との兼務出張による旅費削減、研修会開催なし
広 報 委 員 会	511,000	508,032	2,968	99%	年次報告書、会報印刷経費
人 件 費	7,900,000	7,351,323	548,677	93%	総会人件費、事務局員等人件費
消 耗 品 費	700,000	533,593	166,407	76%	総会用品、会長表彰記念品代等
旅 費 交 通 費	4,500,000	4,053,113	446,887	90%	理事会等出席交通費
通 信 費	300,000	282,659	17,341	94%	
印 刷 費	3,988,000	3,835,422	152,578	96%	会報、年次報告書、Q-JPNCS 報告書印刷費等
賃 借 料	4,000,000	3,533,280	466,720	88%	事務所賃料、総会集計機リース料
会 議 費	3,600,000	2,868,168	731,832	80%	総会、理事会経費
業 務 委 託 費	3,000,000	1,795,095	1,204,905	60%	動画配信サーバー保守料（サーバー保守料削減のため）
管理費	12,330,000	11,128,212	1,201,788	90%	
人 件 費	5,800,000	5,645,578	154,422	97%	事務局員人件費等
消 耗 品 費	700,000	570,653	129,347	82%	文具他、会計ソフト等
光 熱 水 費	600,000	495,516	104,484	83%	事務所光熱水費
旅 費 交 通 費	300,000	116,340	183,660	39%	近地交通費、選挙管理委員会交通費（選挙管理委員の所属校変更のため削減）
通 信 費	300,000	283,228	16,772	94%	切手・郵送費、電話・電報代、振込手数料
印 刷 費	750,000	559,706	190,294	75%	コピー機利用料
賃 借 料	2,600,000	2,421,540	178,460	93%	事務所賃料、コピー機・電話機リース料
会 議 費	200,000	187,300	12,700	94%	管理会議等
業 務 委 託 費	1,000,000	771,851	228,149	77%	公認会計士業務委託契約料、Web 管理契約料、サーバーセキュリティ
租 税 公 課	80,000	76,500	3,500	96%	法人住民税、収入印紙税
将来事業特別会計繰入金	1,000,000	1,000,000	0	100%	将来事業特別会計積立金
維持管理特別会計繰入金	0	0	0		維持管理特別会計積立金
退 職 金 引 当 金	284,000	284,000	0	100%	
預 り 金	2,500,000	2,363,336	136,664	95%	源泉所得税、住民税、社会保険料等
前 期 末 未 払 金	1,000,000	1,521,541	△ 521,541	152%	
期 末 未 払 金	△ 1,000,000	△ 1,592,736	592,736	159%	
予 備 費	5,000,000	0	5,000,000	0%	
（ 支 出 小 計 ）	66,212,000	52,787,768	13,424,232	80%	
次 年 度 繰 越 金	25,022,202	38,632,761	△ 13,610,559	154%	
合 計	91,234,202	91,420,529	△ 186,327	100%	

2. 特別会計

（1）2018（平成 30）年度将来事業特別会計

科 目	2018年度予算	2018年度決算	差 異	執行率	備 考
前 年 度 繰 越 金	7,259,701	7,259,701	0		
繰 入 金	1,000,000	1,000,000	0		
利 息 収 益	0	60	△ 60		
合 計	8,259,701	8,259,761	△ 60		

（2）2018（平成 30）年度維持管理特別会計

科 目	2018年度予算	2018年度決算	差 異	執行率	備 考
前 年 度 繰 越 金	10,000,000	10,000,000	0		
繰 入 金	0	0	0		
利 息 収 益	14,000	15,668	△ 1,668		
合 計	10,014,000	10,015,668	△ 1,668		

2019 年度一般社団法人日本私立看護系大学協会予算書

(2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)

1. 一般会計予算

(収入)

(単位：千円)

科 目	2019年度予算	2018年度予算	差 異	備 考
会 費	59,100	57,700	1,400	会 費@ 300,000 × 193 校 入会金@ 200,000 × 6 校 ※ 8 校 (学部) のうち 2 学部は同一法人による入会と短期大学が 4 年大学になるため免除
銀 行 利 息	1	1	0	普通預金
預 り 金	2,600	2,200	400	源泉所得税、住民税、社会保険料
(収 入 小 計)	61,701	59,901	1,800	
前 年 度 繰 越 金	38,632	31,333	7,299	現金及び普通預金
合 計	100,333	91,234	9,099	

(支出)

科 目	平成30年度予算	平成30年度決算	差 異	備 考
事業費	46,014	45,098	916	
大 学 教 育 委 員 会	5,113	4,201	912	※研修会の開催を 1 回増やしたため増額
研 究 活 動 委 員 会	2,011	1,331	680	※研修会の撮影回数が増えたための業務委託費の増額
研 究 助 成 事 業	7,262	7,298	△ 36	
国 際 交 流 委 員 会	1,325	1,157	168	※ホームページの英訳・翻訳作業のため増額
大学運営・経営委員会	2,067	2,112	△ 45	
渉 外 委 員 会	300	500	△ 200	
広 報 委 員 会	536	511	25	※ホームページ改修のため増額
人 件 費	8,400	7,900	500	総会人件費、事務局員等人件費
消 耗 品 費	700	700	0	会長表彰記念品代等
旅 費 交 通 費	4,500	4,500	0	理事会等出席交通費
通 信 費	400	300	100	
印 刷 費	3,000	3,988	△ 988	会報、年次報告書等印刷経費
賃 借 料	4,000	4,000	0	事務所賃料、総会集計機リース料
会 議 費	3,600	3,600	0	総会、理事会経費
業 務 委 託 費	2,800	3,000	△ 200	動画配信サーバー保守料等
管理費	13,800	12,330	1,470	
人 件 費	6,100	5,800	300	事務局員人件費等
消 耗 品 費	1,000	700	300	文具他、会計ソフト等、選挙ソフト
光 熱 水 費	620	600	20	事務所光熱水費
旅 費 交 通 費	600	300	300	
通 信 費	500	300	200	切手・郵送費、電話・電報代、振込手数料
印 刷 費	1,000	750	250	コピー機利用料等
賃 借 料	2,700	2,600	100	事務所賃料、コピー機・電話機リース料
会 議 費	200	200	0	管理会議等、選挙管理委員会
業 務 委 託 費	1,000	1,000	0	公認会計士業務委託契約料、Web 管理契約料、サーバーセキュリティ
租 税 公 課	80	80	0	法人都民税、収入印紙税
将来事業特別会計繰入金	1,000	1,000	0	将来事業特別会計積立金
維持管理特別会計繰入金	0	0	0	維持管理特別会計積立金
退 職 金 引 当 金	325	284	41	
預 り 金	2,600	2,500	100	源泉所得税、住民税、社会保険料等
前 期 未 払 金	1,600	1,000	600	
期 末 未 払 金	△ 1,600	△ 1,000	△ 600	
予 備 費	5,000	5,000	0	
(支 出 小 計)	68,739	66,212	2,527	
次 年 度 繰 越 金	31,594	25,022	6,572	
合 計	100,333	91,234	9,099	

2. 特別会計

(1) 2019 年度 将来事業特別会計

科 目	2019年度予算	2018年度予算	差 異	備 考
前 年 度 繰 越 金	8,259	7,259	1,000	
繰 入 金	1,000	1,000	0	
利 息 収 益	0	0	0	
合 計	9,259	8,259	1,000	

(2) 2019 年度 維持管理特別会計

科 目	2019年度予算	2018年度予算	差 異	備 考
前 年 度 繰 越 金	10,015	10,000	15	
繰 入 金	0	0	0	
利 息 収 益	16	14	2	
合 計	10,031	10,014	17	

第1回定例理事会

【日時】2019年5月26日（日）10時00分～13時20分

【審議事項】

- 1) 一般財団法人日本看護学教育評価機構への協力体制について、協力することを確認し、1,500万円の拠出について、再検討した結果、拠出しないこととなった。具体的協力の方法は今後、機構の情報収集をした上で検討を続けることとなった。
- 2) 2018年度事業活動報告について
 - ①大学教育委員会の安藤広子理事より以下のとおり報告があった。2018（平成30）年度に開催した2つの研修会は大盛況であり、アンケートには東京以外での開催を希望する声があった。
 - ②研究活動委員会の野並葉子理事より以下のとおり報告があった。今野理恵先生の研究セミナーが好評だったため急遽関西で2回目を開催した。
 - ③国際交流委員会の小山真理子理事より以下のとおり報告があった。研修会では多面的な事例報告があったことが好評であった。
 - ④大学運営・経営委員会の道重文子理事より以下のとおり報告があった。JANPUとの共同事業である「看護系大学に関する実態調査」と「看護系短期大学の教育等に関する実態調査」の集計が終わったので、短期大学分は社員総会までには冊子化して配布する予定である。
 - ⑤渉外委員会の河口てる子理事より以下のとおり報告があった。これからも関係諸団体と連携し、私立看護系大学に有益な情報を会員校に情報発信をしていく。
 - ⑥広報委員会の波川京子理事より以下のとおり報告があった。広報39・40号の発刊と41号の企画、ホームページの掲載について報告があった。
- 3) 2018年度決算案について、長澤正志財務担当理事より報告があった。
- 4) 監査報告について、荒木田美香子監事より報告があった。
- 5) 2019年度一般社団法人日本私立看護系大学協会重点事業（案）が原案通り承認された。
- 6) 2019年度事業活動計画について
 - ①大学教育委員会の安藤広子理事より以下のとおり説明があった。新人のための研修会は北海道と福岡で開催し、指定規則の変更に伴う中堅教員向けカリキュラム構築の研修会を東京で開催する。
 - ②研究活動委員会の野並葉子理事より以下のとおり説明があった。研究セミナーを2回別のテーマで開催する。2回のテーマは継続性があるので2回とも参加してほしいと説明があった。また、研究助成の現在の応募数が、看護学研究奨励賞11件、若手研究者研究助成12件、国際学会発表者助成3件であると報告された。看護学研究奨励賞は、学内1名の推薦であり、受賞歴が名誉なことなので、もっと採択数を増やした方がよいとの意見が出された。これに対し予算内で調整可能であるので今年度は増やせる範疇で対応し、次回理事会で審議することとなった。
 - ③国際交流委員会の小山真理子理事より以下のとおり説明があり、聖路加国際大学の長松康子氏を新たに委員に推薦し承認された。研修会については3つの切り口で講演することの説明が

あった。更にホームページの英語ページの作成についても説明があった。

- ④大学運営・経営委員会の道重文子理事より研修会と看護系大学に関する実態調査についての説明があった。
- ⑤渉外委員会は河口てる子理事より以下のとおり説明があった。2019 年度も関係諸団体からの様々な情報の収集と提供をつづけ、看護系大学の生き残り等にかかる有効な情報があればセミナー開催を考えている。
- ⑥広報委員会の波川京子理事より以下のとおり説明があった。2019 年度も引き続き広報の発刊を進め、英語のページも新たに増やしホームページの修正を進める。
- 7) 2019 年度予算案について、長澤正志財務担当理事より説明があり承認された。
- 8) 規程改正案について、山口桂子業務担当理事より一般社団法人日本私立看護系大学協会役員候補者選出規程（案）、一般社団法人日本私立看護系大学協会選挙管理運営申し合わせ（案）について説明があり、それぞれ承認された。
- 9) 2019 年度新規会員校について、山口桂子業務担当理事より説明があり、大手前大学、岐阜保健大学、四天王寺大学、清泉女学院大学、長岡崇徳大学、長野保健医療大学、名古屋女子大学の 7 校の入会が承認された。
- 10) 2019 年度社員総会の議事について、大島弓子会長より説明があり、2019 年度社員総会議事次第が承認された。
- 11) 社員総会の付帯事業の講演会について、河口てる子理事よりテーマ・主旨、当日のプログラムの説明があった。
- 12) 研究助成事業選考委員について、野並葉子理事より説明があり、高橋泉氏の研究助成事業選考委員の就任が承認された。

【報告事項】

- 1) Nursing Now キャンペーン事業への参画について、大島弓子会長が Nursing Now キャンペーン実行委員顔合わせ・発足会に参加したことが報告された。
- 2) 内部監査について、長澤正志財務担当理事より内部監査の実施について報告があった。
- 3) 司法書士との年間契約について、長澤正志財務担当理事より、石川司法書士と顧問契約を結んだことの報告があった。
- 4) 研究助成事業応募状況等と研究期間延長について、野並葉子理事より 1 名の研究期間延長を認めたことの報告があった。また、研究助成の現在の応募数が、看護学研究奨励賞 11 件、若手研究者研究助成 12 件、国際学会発表者助成 3 件であると報告された。
- 5) 事務局臨時職員採用について、山口桂子業務担当理事より、臨時職員を募集することが報告された。
- 6) 2018（平成 30）年度年次報告書について、波川京子理事より 2018（平成 30）年度年次報告書の内容について報告があった。

第2回定例理事会

【日 時】2019年6月30日（日）13時00分～16時30分

【審議事項】

- 1) 一般財団法人日本看護学教育評価機構への協力体制について、大島弓子会長より経緯等の報告があった。
- 2) 2019年度重点事業最終確認について、承認された。
- 3) ホームページの充実に向けた対応について、波川京子理事よりホームページの各委員会ページの拡大等について説明があり、各理事から意見が出され進めることとなった。
- 4) 委員会等活動計画案について、島袋香子理事より報告があり修正し承認された。
- 5) 2019年度予算案について、長澤正志財務担当理事より説明があり承認された。
- 6) 2019年度研究助成事業採択者について、野並葉子理事より選考結果について報告があり、審議の結果、看護学研究奨励賞8件、若手研究者研究助成9件、国際学会発表助成3件の採択が承認された。
- 7) Nursing Now キャンペーン事業への参画の対応について、ロゴを使うための許可を取り、社員総会で会員校に発信してもらうように説明することとなった。
- 8) 文部科学省「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会」の方向性について、①指定規則について②指定規則がなくなった時の教育の拠り所について③看護師・保健師・助産師の無資格者の実習について、各理事より発言があり審議された。
- 9) 2019年度社員総会の議題確認および進行計画案について、社員総会の流れを確認した。
- 10) 選挙管理委員会の立ち上げについて、選挙管理委員会について、山口桂子業務担当理事より4名の候補者があげられ、社員総会までに内諾を得て、社員総会後に臨時理事会を開催し審議することとなった。

【報告事項】

- 1) 監査報告について、鎌倉やよい監事より適正な財務の状況等を確認したと報告された。
- 2) 委員会報告
 - ①大学教育委員会の安藤広子理事より今年度はテーマⅠ「新任教員のための研修会」を北海道と福岡で2回開催し、テーマⅡ「中堅教員向けの研修会」をアルカディア市ヶ谷で開催することが報告された。テーマⅠの講演の順番が現時点では小山先生の次に井部先生の順番だが変更する可能性があることが報告された。テーマⅡの講演内容を社員総会までに講師の方々に確認することが報告された。
 - ②研究活動委員会の野並葉子理事より今年度は研究セミナーを2回開催することが報告された。
 - ③国際交流委員会の小山真理子理事より前回の理事会より変更した点はないと報告された。
 - ④大学運営・経営委員会の春山早苗理事より委員長が道重文子理事から春山早苗理事に変わったことが報告された。
 - ⑤渉外委員会の河口てる子理事より関係諸団体などから情報収集をして、会員校に発信するような情報が得られれば研修会を開催する予定だと報告された。
 - ⑥広報委員会の波川京子理事より会報42号の発刊とホームページの改修を行うことが報告され

た。

- 3) 事務局臨時職員について、山口桂子業務担当理事より、臨時職員の募集を行ったがこちらが求めている条件とは合わなかったため現時点で新たな雇用はしておらず、今後も執行部で検討していくと報告された。

第1回臨時理事会

【日 時】2019年7月12日（金）9時30分～10時00分

【審議事項】

- 1) 選挙管理委員の委嘱について、大島弓子会長より説明があり、選挙管理委員を委嘱することが承認された。
- 2) 新規会員校について、東都大学幕張ヒューマンケア学部看護学科の入会が承認された。
- 3) 2019年度予算について、長澤正志財務担当理事より説明があり、原案通り承認された。

第2回臨時理事会（電磁的記録による理事会）

【発 信 日】2019年9月10日（火）

【審議事項】 選挙管理委員について

大島弓子代表理事が当法人の理事及び監事の全員に対して上記議案について提案書を発した。当該提案につき、2019年9月17日までに理事全員から電磁的記録により同意の意思表示を、監事全員から電磁的記録により異議がない旨の意思表示を得たので、一般社団法人日本私立看護系大学協会定款第41条の定めに基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

第3回定例理事会

【日 時】2019年10月14日（月）10時00分～13時00分

【審議事項】

1) 私立大学等改革総合支援事業について

河口てる子理事より活動状況の把握と情報収集のため日本私立大学協会と日本私立学校振興・共済事業団を往訪する予定であることが説明された。

2) 一般財団法人日本看護学教育評価機構への協力について

大島弓子会長より本協会の協力について、一般財団法人日本看護学教育評価機構へ文書により報告したことの説明があった。長澤正志財務担当理事より国の公益法人指導監督基準を基に1,740万円の繰越金を恒常的に保有することを前提とし、受審料の補助金額として3案が提示された。アンケートは、執行部で再度検討した後、理事にメールで意見を伺い会長の責任で行うこととなった。

3) 規程等の改正について

長澤正志財務担当理事より説明があり、経理規程施行細則第14条固定資産の耐用年数表（案）は、原案とおり承認された。入会規程新旧対照表（案）第2条第5項は、修正し承認された。

4) 2020年度社員総会後の講演テーマと講演者について

執行部で協議し2020年1月の臨時理事会で決定することとなった。

【報告事項】

1) 文部科学省「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会（第4回）」審議に対する本協会としての意見、実習ガイドライン案への意見について

2) 2019年度事業活動報告（中期）と予算執行状況について

①大学教育委員会

安藤広子理事より今後の課題について、看護学教育の動向を見つつ、次年度の事業活動計画を検討し、研修会開催地域等については早期に通知できるようにしたいと報告された。

②研究活動委員会

島袋香子理事より研究助成採択者の4名から変更の申し入れについて承認したと報告された。

③国際交流委員会

小山真理子理事より研修会について、3名の講師からの切り口の違う講演が好評であったと報告があった。また、協会ホームページの英訳編集集中であると報告があった。

④大学運営・経営委員会

春山早苗理事より、一般社団法人日本看護系大学協議会との合同調査「看護系大学に関する実態調査」と「看護系短期大学の教育等に関する実態調査」は実施中であると報告があった。

⑤渉外委員会

河口てる子理事より活動状況の把握と情報収集のため日本私立大学協会と日本私立学校振興・共済事業団を往訪する予定であることが説明され、看護学教育の経費について、大学運営・経営委員会と連携してデータの分析を進めると説明があった。また、Nursing Now キャンペーンの活動状況について報告があった。

⑥広報委員会

波川京子理事よりホームページの改修について報告があり、委員会ページの改修状況が確認された。

- 3) 2019 年度中期決算について、長澤正志財務担当理事より報告があった。
- 4) 研究助成申請者の取り下げについて、島袋香子理事より報告があった。
- 5) 2020 年度役員候補者選出選挙について、山口桂子理事より選挙管理委員会スケジュールについて説明があった。
- 6) Nursing Now キャンペーン事業への参画について、河口てる子理事より実行委員会に出席したこととその内容についての報告があった。
- 7) 2019 年度社員総会アンケート結果について、山口桂子理事より報告があった。
- 8) 8 月から 9 月の災害の会員校への対応と被害状況について、山口桂子理事より報告があった。
- 9) 事務局職員の採用について、山口桂子理事より 10 月 1 日付けで嘱託職員 1 名を採用したことの報告があった。
- 10) 次回理事会について、1 月 26 日（日）13 時から 16 時まで第 3 回臨時理事会を開催することを確認した。

第3回臨時理事会

【日 時】2020年1月26日（日）13時00分～16時00分

【審議事項】

1) 選挙について、選挙管理委員会からの報告と審議

出野慶子選挙管理委員長より2020年度選挙管理委員一覧に基づき選挙管理委員の紹介があった。また、第1回選挙管理委員会議事録、2020年度役員候補者選出選挙スケジュールに基づき説明があった。

大島弓子理事より役員任期の課題について説明があり、役員任期に関することは、2017年度の理事会審議経過の経緯等からすると、今後定款を変更して役員候補者選出規程に盛り込むか再度検討する必要がある場合もある。その時は、選挙実施の前年度の理事会と社員総会において審議、決定しておく必要があると説明された。

2) 一般財団法人日本看護学教育評価機構への協力に向けたアンケート案について、山口桂子理事より説明があり、2月上旬に実施することとなった。

3) 2020年度重点事業草案について

大島弓子会長より説明があり、次回理事会において継続審議することとなった。

4) 2020年度事業活動計画案について

(1) 大学教育委員会

安藤広子理事より事業活動計画書案に基づき説明があった。

(2) 研究活動委員会

島袋香子理事より事業活動計画書案に基づき説明があった。

(3) 大学運営・経営委員会

春山早苗理事より事業活動計画書案に基づき説明があった。

(4) 渉外委員会

河口てる子理事より事業活動計画書案に基づき説明があった。

(5) 広報委員会

波川京子理事より事業活動計画書案に基づき説明があった。

5) 規程等の見直しについて

長澤正志財務担当理事より一般社団法人日本私立看護系大学協会役員候補者選出規程（案）新旧対照表、一般社団法人日本私立看護系大学協会選挙管理委員会規程（案）新旧対照表に基づき説明があり、原案とおりの承認された。

6) 2020年度社員総会付帯事業（講演会）の講演者について

河口てる子理事を中心に企画等の詳細を検討することとなった。

【報告事項】

1) 委員会報告

(1) 大学教育委員会

三橋睦子理事より新任教員のための研修会の参加者は約70名、カリキュラムについての研修会は約170名の参加であり、昨年度からの課題であったグループワークへの積極的な参加につ

いても事前に調整することによって改善されたと報告された。

(2) 研究活動委員会

島袋香子理事より以前は研究助成の研究成果報告に不十分なものがあったので懸念していたが、今年度からは研究指導者を有していることを募集の要件としており、研究成果報告会へ学部長などの研究指導者が出席されておりしっかりしてきて安心していると報告があった。

(3) 国際交流委員会

大島弓子会長より 10 月 6 日に開催した研修会は経験年数が多い方が多く参加されており、満足度が高い研修会であったと報告があった。

(4) 大学運営・経営委員会

春山早苗理事より研修会は 33 校 53 名の参加で好評であったことが報告された。実態調査については提出が終わり、1 月 28 日に JANPU と合同会議があると報告された。

(5) 渉外委員会

河口てる子理事より日本私立大学協会と日本私立学校振興・共済事業団を訪問し、理事長や理事のそれぞれの考えを聞き、小規模校について話をしたと報告された。また、日本学術会議等については情報収集をしていると報告された。

(6) 広報委員会

波川京子理事より 5 月と 11 月に会報を発刊し、ホームページの委員会活動ページを新設したと報告された。

2) 私立大学等改革総合支援事業について

河口てる子理事より日本私立大学協会と日本私立学校振興・共済事業団を訪問し、それぞれの方向性や理事長の考えを聞き、小規模校について話をしたと報告され、引き続き情報交換をしていくと報告された。

3) Nursing Now キャンペーン事業について

大島弓子会長より Nursing Now キャンペーンの講演や分科会の計画について説明された。また、キャンペーングッズについての案内がされた。

4) ホームページについて

次年度はホームページの構成やよりタイムリーな更新などを目指していくために広報委員会で委員の増員などを見込み予算化していくこととなった。

5) 会長表彰について

山口桂子理事より会長表彰の文章の改正について説明があり、承認された。また規程の改正については次年度に向けて継続審議することとなった。

6) 文部科学省「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会（第 3 回）」における協会としての意見、実習ガイドライン案への意見について、大島弓子会長より説明があった。

7) 2020 年度理事会日程について

理事会日程調整表に基づき理事会日程について調整した。

第4回定例理事会（電磁的記録による理事会）

【発信日】2020年3月26日（木）

【報告事項】

- 1）新型コロナウイルス感染症に関する対応について
- 2）2020年度役員候補者選出選挙について
- 3）2020年度社員総会について
- 4）2020年度重点事業（案）について
- 5）2020年度事業活動案について
- 6）2020年度予算案について
- 7）一般財団法人日本看護学教育評価機構への協力体制の方針について
- 8）Nursing Now キャンペーン事業について
- 9）2020年度理事会日程について

会長表彰について

卒業生のある会員校より各校1名の推薦を受け、人間性の陶冶につとめ優れた業績をおさめた156名の卒業生へ、表彰状と記念品（ナースバサミ）を贈呈しました。卒業生のある対象校166校のうち156校より推薦がありました。（94.0％）

Ⅱ 2019 年度 委員会活動報告

1. 大学教育委員会

1. 趣旨

- ①教育内容（カリキュラム）、方法、評価の調査研究
- ②教員組織、教員の質・能力向上、教育能力・施設設備の調査研究
- ③教育に関するセミナー、ワークショップ等の実施
- ④上記①～③に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

○安藤 広子（日本赤十字秋田看護大学）

三国 久美（北海道医療大学）

三橋 睦子（久留米大学）

（委員）

北 素子（東京慈恵会医科大学）、新田 純子（日本赤十字秋田看護大学）、

福井 純子（北海道医療大学）、益守 かづき（久留米大学）

（研修会運営委員）

中村 恵子、中村 恵子（北海道医療大学）

丹野 英治、藤好 貴子（久留米大学）

3. 活動報告

<第1回委員会>

日時：2019年5月26日（日）13：40～14：15

場所：一般社団法人日本私立看護系大学協会 事務局

出席者：（理事）安藤広子、三国久美、三橋睦子（敬称略）（事務局）福島洋子

議事：

1. 2019年度研修会について

1）テーマⅠ：新任教員対象の研修会「大学新任教員のための研修会2019」

2）テーマⅡ：中堅教員向け研修会「カリキュラム構築に向けたスキルアップを目指して」

2. その他

1）委員会の開催について

2）2019年度事業活動計画書について

<第2回委員会>

日時：2019年10月14日（月）14：10～14：40

場所：一般社団法人日本私立看護系大学協会 事務局

出席者：（理事）安藤広子、三橋睦子（敬称略）（事務局）福島洋子

三国久美理事は、台風のため欠席

議事：

1. 2019年度研修会について

1)「大学新任教員のための研修会 2019（福岡）」

2)「カリキュラム構築に向けたスキルアップを目指して」

2. 2020 年度研修会について

3. 委員会の開催について

<第3回委員会>

日時：2019 年 12 月 13 日（金）18：00～19：20

場所：久留米大学 福岡サテライトキャンパス

出席者：（理事）安藤広子、三国久美、三橋睦子

（委員）北素子、新田純子、福井純子、益守かづき（敬称略）（事務局）福島洋子

議事：

1. 2019 年度研修会の運営について

2. 2020 年度事業活動計画について

1) 新任教員向け研修会（2 回開催予定）

2) テーマⅡ 中堅教員向け研修会

3. その他

<研修会>

テーマⅠ：新任教員対象の研修会「大学新任教員のための研修会 2019（北海道）」開催

開催日時：2019 年 8 月 9 日（金）10：20～16：00

開催場所：ACU-A（アスティ 45）研修室 1606

講演 1：「看護系私立大学の教員になるとは 一教員に求められる資質と効果的な教育方法について」

講師：小山 眞理子 氏（日本赤十字広島看護大学 学長）

講演 2：「看護系私立大学とは 一私学の特性と教育について」

講師：井部 俊子 氏（長野保健医療大学 副学長・看護学部長）

グループワーク

結果：参加者 59 名（28 校） グループワーク参加者 50 名、アンケート結果参照

動画配信期間：2019 年 12 月 18 日～2020 年 3 月 18 日 視聴数：465 件

テーマⅠ：新任教員対象の研修会「大学新任教員のための研修会 2019（福岡）」開催

開催日時：2019 年 12 月 14 日（土） 10：20～16：00

開催場所：八重洲博多ビル 11 階

講演 1：「看護系私立大学の教員になるとは 一教員に求められる資質と効果的な教育方法について」

講師：小山 眞理子 氏（日本赤十字広島看護大学 学長）

講演 2：「看護系私立大学とは 一私学の特性と教育について」

講師：井部 俊子 氏（長野保健医療大学 副学長・看護学部長）

グループワーク

結果：参加者 70 名（37 校） グループワーク参加者 59 名、アンケート結果参照

テーマⅡ：中堅教員向け研修会「カリキュラム構築に向けたスキルアップを目指して」

開催日時：2020 年 1 月 13 日（月） 10：00～16：00

開催場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）6 階霧島

講演 1：「看護学教育モデル・コア・カリキュラムの活用ポイント」

講師：小山田 恭子 氏（聖路加国際大学 教授）

講演 2：「3 ポリシーをふまえたカリキュラム評価をどのように行うか」

講師：山田 剛史 氏（京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授）

グループワーク

結果：参加者 154 名（76 校） グループワーク参加者 110 名、アンケート結果参照

動画配信期間：2020 年 2 月 5 日～2020 年 5 月 7 日 視聴数：1,070 件

4. 今後の課題

前年度からの課題：看護学教育を取り巻く社会の変化が激しい中、長期的な事業活動は具体的な計画が立てにくい状況にある。そのため事業活動計画を進めながら、あわせて情報収集し、変化を踏まえて長期計画へと発展させていきたい。本委員会の担当する事業である、大学における教育、教員の質の向上に関するものは多岐にわたり、対象とする教員の職位も新任者から管理者に至り、それぞれの対象者のニーズも多様である。今後本協会の会員校である私学の急増を踏まえ、会員校のニーズを把握して事業を企画する必要がある。

今年度中期の課題：前半期の事業活動を踏まえ、さらに看護学教育の動向を見つつ、本委員会の次年度の事業活動計画を検討する。尚、研修会開催予定地域については、早期に通知できるようにしたい。またグループワークの満足度が高く、今後も継続したい。

一般社団法人日本私立看護系大学協会
「大学新任教員のための研修会 2019（北海道）」アンケート結果

参加者数：59 人 参加校数：28 校

アンケート回答者数：59 人（回答率：100%）

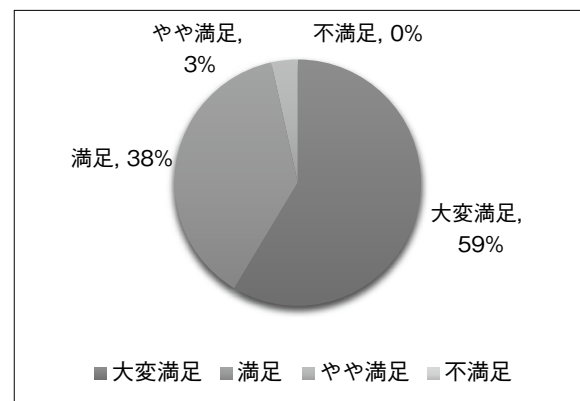
日時：2019 年 8 月 9 日（金）10:20 ～ 16:00

場所：ACU-A（アスティ 45）研修室 1606

1. 講演 1「看護系私立大学の教員になるとは—教員に求められる資質と効果的な教育方法について—」講師：小山真理子 先生

1) 講演の内容について

	人数	割合
大変満足	34	59%
満足	22	38%
やや満足	2	3%
不満足	0	0%
合計	58	100%



2) ご意見、感想など

- ・ 具体的な内容であり時間もあっという間でした。新人プログラムについて当大学でも考えていきたいと思った。
- ・ 自施設には新任教員向け FD もなく、新任指導は講座に任され、その体制に不満を持っています。それでも、今回若手のための FD ガイドラインというものがあると知って、自分でも多方面に目を向けて、情報を集めて自分で吸収して頑張ってみようと思えました。また、この先着任される先生の力になれるように、FD プログラムを企画するなど頑張りたいと思いました。
- ・ FD ガイドラインなど知らないことも多くとても役に立った。教員とは何か、役割とは改めて考えることができた。
- ・ 私学の教員として「教える」という上での心構え、意識すべき点を改めて学べたと思っています。学生が良い学びができるよう、サポートしていきたいと思います。
- ・ 学生にも人格があるというお話が大変印象的でした。先生のあたたかさが伝わってきました。
- ・ 講義内容は大変満足だったのですがもう少し事例などお話を聞きたかったです。時間が足りないと感じました。
- ・ 教員になり 1 カ月なので、とても分かりやすく、自分の立ち位置など理解できた。FD という言葉もあまり聞いたことのない状態であったので本日頂いた配布資料を活用していきたいです。
- ・ 教員の役割について学ぶことができ「何を教えるか」ではなく「学生が何を学んだのか」ということを考えていくことが大切だと改めて認識した。
- ・ FD ガイドラインなど大変役立つ情報を得ました。
- ・ 看護大学の教員になって 3 年たちます。日々教員としての在り方、教育とは何か。を考えていた

1年目の自分を思い出しながら聴講させていただきました。自分の上司が日頃私に言う言葉や教員としての姿勢がそのままスライドにのっていたという感じでした。学生の力を引き出す教員の指導力が大事なのだと改めて感じたので、先輩・上司の講義の方法、学生対応の様子をしっかりと見て勉強していきたいです。

- ・ 分かりやすい例を交えてご説明頂き教員として大事なポイントをしっかり理解することができました。また活用できるツールも教えて頂き、大学に持ち帰りたいと思います。
- ・ 私立大学の教員としてのお話を興味深く聞けました。FD ガイドラインを参考に自分でも考えていきたいと思います。発問についてもっと教えていただきたかった。
- ・ 教育としての使命、役割についてよくわかりました。初心を忘れずに教育等に励みたいと思います。
- ・ 詳しく学ぶ機会がなかったので参考になりました。
- ・ 今年から教員になったばかりでFD ガイドラインについても認識しておりませんでした。自身の教員としての役割を改めて考える機会になりました。
- ・ 時間的に難しかったと思いますが例をもっと聞きたかったです。自分自身の考え方（実践できているかは別ですが）こうありたいと思う教育、教員としての在り方が間違っていないということで自信を持てました。現在の大学では育てたい学生像やカリキュラムについての共通認識がなく、とにかく決められた回数の授業をこなすことに終始しており、自分のやっていることへの他者評価が得られず辛さを感じていました。学生はもちろん教員も育つ環境を選ぶことが必要かもしれない。
- ・ 教育は繰り返すという言葉がとても印象深かったです。その様になれるように自らが自分と向き合い高められるよう努力しなければと思いました。
- ・ 学生を第一に考えることの重要性を改めて感じることができた。FD ガイドラインを活用し達成できるように活用していきたい。
- ・ パラタイム、アサーション、PBL など用語の理解が十分でないため帰ってから調べたいと思います。時間がもっと欲しかったです。
- ・ FD など分からない言葉が多くあり、少し分かりづらかったです。ざっくりでもいいので少し意味を言って欲しかったです。
- ・ 看護教員としての資質と合わせ心意気が伝わりました。
- ・ FD やガイドラインがとても参考になります。自分自身が足りない事やこれから取り組むべき課題を見ることが出来、とても参考になりました。
- ・ 大学で教員の立場での心構え、学生にどう接していけばよいか、いつも不安に思っていたことが網羅された内容だった。看護職を目指す学生の人生に関わる重大な責任を負っていること、自分の給与は学生の納付金からいただいていることを実感した。学生の学びを支えられる教員を目指したい。
- ・ もう少し時間をかけて講演を聞きたかった。
- ・ 小山先生の講演は、新任教員として必要な知識、情報を収集していくための具体的なお話で分かりやすく、文献を活用してすぐに取り組みます。現在2年目になります。オリエンテーションは就業規則の説明が事務からあるのみでOJTで失敗を繰り返し、振り返りを記入しながら、職場

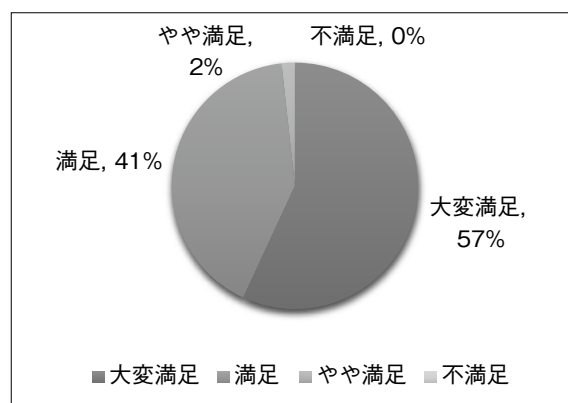
適応と教員としての役割を手探りしてきました。貴重なお話を聴講させていただき感謝いたします。

- ・具体例がききたかった。
- ・若手看護学教員のためのFDガイドラインを作った大変さもあると思います。これがあるだけで目指すことが分かり、何を学び得ながら教員としてやっていくべきか明確になると思います。是非、全ての私立看護系大学で使用してほしいです。
- ・FDガイドラインを教えていただけてよかったです。

2. 講演2「看護系私立大学とは—私学の特性と教育について—」 講師：井部俊子 先生

1) 講演の内容について

	人数	割合
大変満足	33	57%
満足	24	41%
やや満足	1	2%
不満足	0	0%
合計	58	100%



2) ご意見、感想など

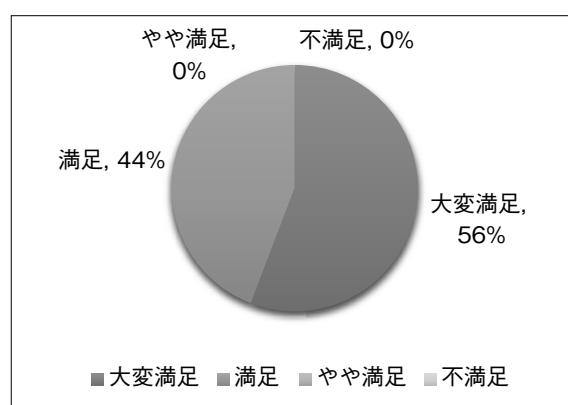
- ・私立看護系大学のこと、なぜここまで増えてきたのか背景が分かりました。経営の視点が加わることと教育はあまりマッチしないのではと考えていましたが、私学の持つ理念や大学ごとの考え方はサービスとして提供しえと感じました。
- ・教育はサービスであり大学が増加し、少子化が進んでいる中で3つのポリシー・建学精神を大切に選んでもらえるような環境を作っていくことが大切だと感じた。
- ・大変興味深いお話で大学に行くのが少し楽しみになりました。
- ・大学が増えて看護の質は向上したのか。という疑問にハッとしました。大学教員としての気概を持てるよう努めます。
- ・内容もさることながら、歯切れの良い口調がとても気持ちよかったです。
- ・井部先生のプレゼンテーションが面白かったです。
- ・パワーがありよかった。
- ・井部先生の講演の中で、一番印象に残ったことは、大学は看護学を教えるところか、看護師を養成するところか、とのお話でした。「看護学」を学生が習得した上で看護師になれるように教員の役割を考えていこうと思いました。
- ・教員として何をしていくのか、熱い思いがこみ上げてきました。私が臨床で問題と思っていたことを井部先生に語っていただきました。それを次世代につなげていく役割を強く感じました。
- ・現在の私立看護系大学の在り方が理解できてよかったです。
- ・教育をサービスの一つとして捉えることで、教員として行うべきことが明確化できた。
- ・内容が難しくまた講演タイトルとあっているのか少し疑問に思いました。

- ・建学の精神に根ざした教育の実践を心がけます。
- ・法律から学べ広い視点から大学の役割を学ぶことができた。
- ・看護のアジェンダをいつも拝読しておりました。自身は国立で学んできたこともあり、私立大学教育について理解できてないまま教職についたことを恥ずかしく思いました。
- ・具体的な法の話など分かりやすかったです。
- ・学問の仕方のイメージが湧きました。人に与えられるべきものではなく自分がまず考えること、学生が主体的に考えることを大切にする。
- ・看護のアジェンダの内容でとても勉強になりました。病院と訪問看護の連携は今だに縮まらないものがあると思いますので、改革が必要だと思います。
- ・大学という組織における管理の視点の重要性を確認できた。
- ・新人レベルに合わせて話してくださり、とても分かりやすかったです。楽しく学びました。講演を聞いてこの仕事に前向きな気持ちになれました。
- ・普段あまり気にしていなかったことを沢山知ることができました。
- ・学生の新たなステージを否定しない。大変共感し感銘を受けた。
- ・私立大学が看護師を育てる要となることが分かった。
- ・「看護」「看護のアジェンダ」を購読いたします。学校をサービスの場であると捉えると自分自身の役割遂行、やる気、マネジメントの仕方を考えられるのだと分かりました。大学の役割を果たす一端になり、いつか計画からプロセス、結果を学生や他の教員と楽しめるようになりたいと考えました。明日から考え方がチェンジできそうなお話を聴講させていただき感謝いたします。
- ・もう少し、私立大学と国立大学の違い（できること、役割、特徴など）について教えていただきたかったです。「長寿化時代のステージ」について学ぶことが多く学生を捉える上でもっと柔軟に考えていかないといけないと感じました。

3. グループワーク

1) グループワークについて

	人数	割合
大変満足	24	56%
満足	19	44%
やや満足	0	0%
不満足	0	0%
合計	43	100%



2) ご意見、感想など

- ・他大学の方々と意見交換できてよかった。
- ・もう少し時間があればよかった。
- ・他の参加者の学びを聴き、現場での悩みを共有できたのがよかった。
- ・他施設で同じように4月から教員をしている方が多く似たような悩みを共有できた。悩んだり、

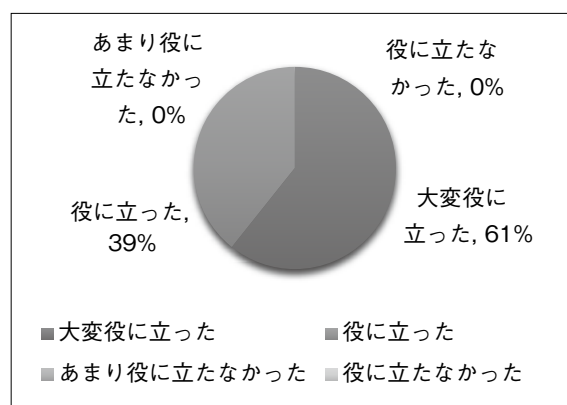
できない、ムリ、といった意見も出てきたが、何か今の自分だからできることを取組みたいと思った。

- ・全国悩みは共通だと感じた。
- ・他の教員の先生方も同じ悩みがあり共有で来てよかった。
- ・楽しく話せました。
- ・とても楽しかった。
- ・他分野、領域の先生たちと話すことができとても参考になりました。根底にある教育の悩みには大きな違いがないと分かりました。
- ・ディスカッションを通じて、他の大学の先生方も同じような悩みがあるということが知れ、一緒に頑張りたいと思いました。
- ・他の方も同じように悩んでいることがわかり、分かち合うことができて良かったです。
- ・他大学の先生の意見が聞けて自信になった。
- ・他大学の先生たちと情報交換したり学びを共有できたのはとても楽しく充実した時間となった。
- ・大学を超えて共通に目指している事悩んでいる事、一方違いなども共有できて有意義でした。
- ・ディスカッションは仕方ないですが、もう少し長く時間が取れば良かったです。
- ・共感できることが多く参考になりました。
- ・時間がもっとあると良かったです。楽しかったです。
- ・早速、関連の本を読み自己学習を進めたいと思いました。
- ・様々な意見交換ができ良かったです。
- ・共通の課題があることを認識できた。

4. 研修会全体

1) 研修会全体について

	人数	割合
大変役に立った	34	61%
役に立った	22	39%
あまり役に立たなかった	0	0%
役に立たなかった	0	0%
合計	56	100%



2) ご意見、感想など

- ・先生方の講義をもっと受けたかった。自校に新任向けFDが定着しておらず、そのような大学が多い現状もありますので、この研修会自体が例えば2日間にするなど内容がより充実したものになると助かります。自分たちで新任向けFDプログラムを企画したいと思いました。
- ・学生が社会へ出る前の期間としての4年間で、いかに私たちがサポートできるのか。その重要性和必要性に気付かされました。大変学びになりました。
- ・時間配分がバタバタしてしまったので、もう少しグループワークしたかったです。

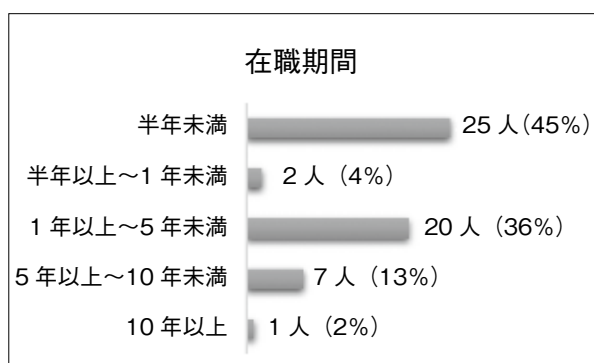
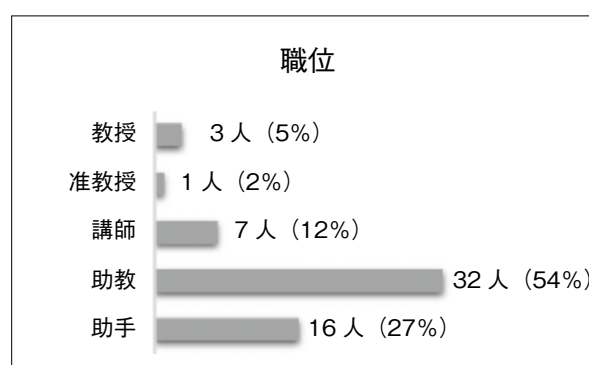
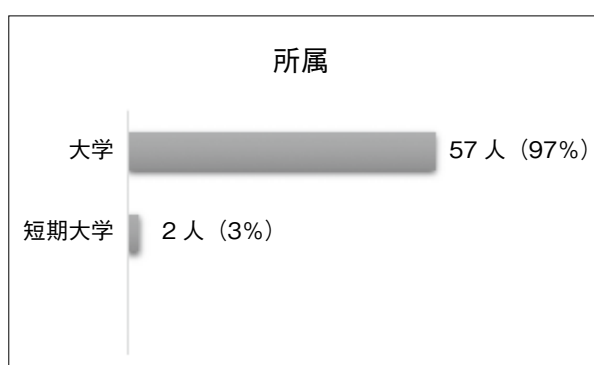
- ・初めての研修で、知らないことをたくさん知れてよかったです。今回の研修で学んだこと、今困っていることを報告書に書くところから活かしていきたいと思います。
- ・グループワークで話せたことがとてもよい経験になった。同じ大学だけでなく、他領域の先生との交流もしたいと思いました。
- ・大変勉強になったのと新任教員たちのよい交流の場となりました。
- ・「教育はくり返す」が印象的でした。学び続けたいと思います。
- ・今年教員となり、初めての実習指導、演習での指導など、学生に教える際に不安なことが多くあった。今回若手看護学教員のためのFDガイドラインなど多くのことを知ることができました。今後大学へ戻り、FDガイドラインを使用しながら頑張っていきたいと思いました。
- ・やはり新任者のFDが自分の大学にはないので、このような研修はありがたいと思った。
- ・とても勉強になりました。小山先生、井部先生に直に質問できる場面があったら良いと思いました。
- ・地方での開催、とても良い気分転換になりました。講演2を先に聞きたかったです。
- ・普段なかなか聞かない内容の話が多かったが、興味深かったです。
- ・4月から大学で助手として勤務をはじめて、教育に不安を抱いていたが、講演を聞いて具体的な教育の考え方がわかった。
- ・目の前が開かれた気持ちになれました。すぐ取り組める内容であることと、力が与えられる研修でした。
- ・講師のグループ発表に対するフィードバックがとてもよかったと思います。とても勉強になりました。

5. 今後、本協会「大学教育委員会事業」で希望するテーマ、開催方法、開催時期、場所など

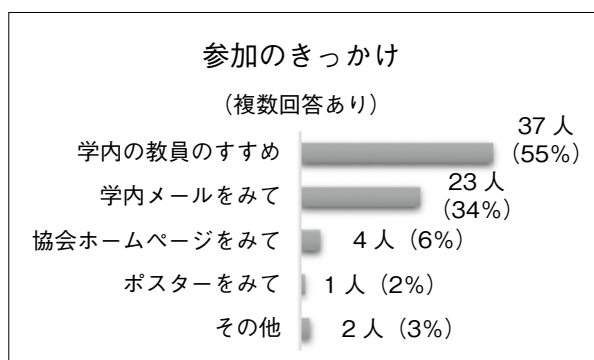
- ・フォローアップ研修のようなものを開催してほしい。場所はできれば近場が良いと思う。
- ・教員として学ぶべきことはたくさんあることがわかった。全国にいる同じ教員とこのような意見交換ができる場はよいと思った。
- ・札幌と九州では両端すぎるので、1回は東京開催ですと参加しやすいです。
- ・年数回、県単位でもよいので新任教員に向けたセミナー等があればよい。
- ・発問の仕方や現場で困っていることを話し合いたい。
- ・時期は実習等重なっておらず参加しやすかったです。テーマも新任教員を対象だったので良かったです。
- ・授業設計の仕方、アクティブラーニング
- ・看護研究について
- ・専門学校から大学教員になった人を対象とする研修をしてほしい。根元的なところが理解し合えないと日々悩んでいます。学生への関わり方、カリキュラムの考え方、授業のやり方など
- ・大学組織と管理（マネジメント）
- ・新任教員の中にタイムマネジメントについても学びたかったです。7:00～20-21:00と業務、授業の準備は土日という生活も戸惑いと疲れが出てきてしまい、自分で工夫をどうすればよいのか悩み考えています。

- ・教員が学生・保護者から受けるハラスメントの対策を知りたいです。
- ・大学毎でなく、授業案等の書き方も学べる場が欲しいです。（専門学校教員が受ける、1年研修のような）新任教員として学べる事は、1日だと少なく感じます。
- ・3年未満の教員だけのFD
- ・新任教員向けの研修を複数日で開催してほしい（シリーズなどで）70分ずつでは短い。統計セミナー（多変量解析、尺度開発）を希望します。
- ・土曜日の開催をしてほしい。看護の研究に役立つ勉強会や講演を開催してほしい。
- ・入職直前か4～5月位のもう少し早い時期に開催していただけると助かります。心が軽くなる気がします。
- ・AI活用等に関するテーマ

6. 参加者について



7. 研修会への参加のきっかけ



一般社団法人日本私立看護系大学協会
「大学新任教員のための研修会 2019（福岡）」アンケート結果
参加者数：70 人 参加校数：37 校
アンケート回答者数：62 人（回答率：88.6%）

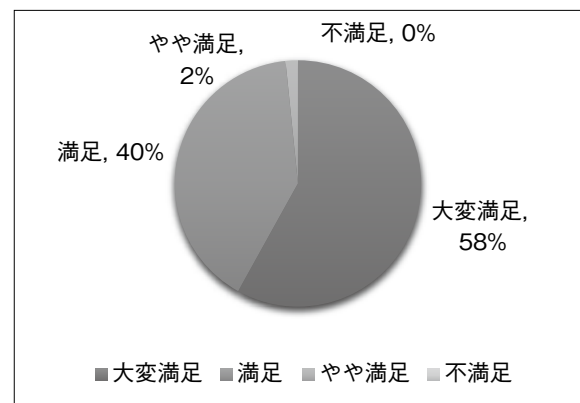
日時：2019 年 12 月 14 日（土）10:20 ～ 16:00

場所：八重洲博多ビル 11 階

1. 講演 1「看護系私立大学の教員になるとは—教育に求められる資質と効果的な教育方法について—」 講師：小山真理子 先生

1) 講演の内容について

	人数	割合
大変満足	36	58%
満足	25	40%
やや満足	1	2%
不満足	0	0%
合計	62	100%



2) ご意見、感想など

- ・看護教員として求められていることや、今、自分がどういう立場にあるのかということ、また教員としての大切なことも知ることができ、貴重な内容でした。
- ・看護学を伝える自覚と責任を果たしたいと思います。学生が看護を楽しみと思える講義や実習指導の工夫を目指します。
- ・4月より教員となり、自分なりの目標は持っていたが、それが大学教員として求められていることと一致しているのか、どのようなことが求められているのか不安だったが、講演を通し道筋がたち、大変ためになった。
- ・教員としての姿勢を学ぶことができた。
- ・学生に対する向き合い方など非常に参考になりました。
- ・大学人として、また学生に伝えていく教育者としての姿勢を学んだように思います。先生のまなざしに多くを学ばせていただきました。
- ・ポイントを各々に入れていただき理解もしやすかったです。
- ・研究にも力を入れていきたい。
- ・先生の話し方がとても引き込まれた。講義の参考にしたいと思った。
- ・今後の実施すべき行動が、理解できた。授業案・議事録については指導依頼しているが、特別な指導を受けていないため不安に思っていた。今後の指導を受けるにあたり、検討したい。
- ・基本的な考えの根本となることをお話いただきました。
- ・学生に対する言葉の定義、入学した学生に対する責任という言葉が印象的でした。当大学は、かなり学生確保に困っており、学生の元々の質等も考えながら今後の教育に活かしていきたいと思

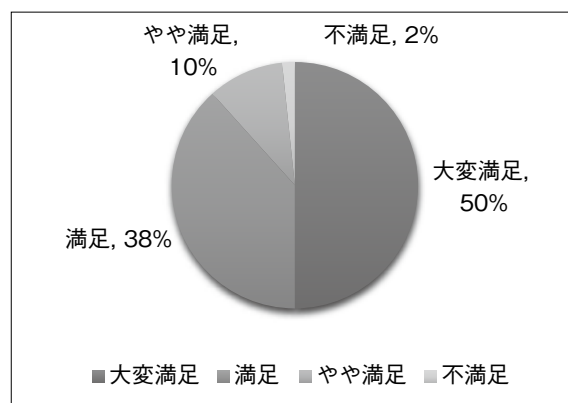
います。

- ・時間に限りがあったためもう少し時間をかけていただけるとありがたい。教員としては自分自身で考え続けることが大切だと学んだ。
- ・教員としての必要な基本的なことを改めて考えることができました。
- ・教員のための教育を受け入れて勉強になった。
- ・看護系私立大学の教員のおさえておきたいポイントを知ることが出来ました。
- ・初めて教員になり、私立大学の看護教員として求められるもの等、あまりよく分かっていなかったのも、とても勉強になりました。特に小山先生のお話は胸が熱くなるものがありました。
- ・看護教育に携わる者として、どういう準備が必要なのか学ぶことができた。
- ・上司に聞いても教えてもらえないような内容で良かったです。
- ・今、自分が感じている“しんどさ”を、先に経験されている大先輩からお話を聞かせていただけたこと、本日参加して本当に良かったです。自己研鑽も、自分の為そして学生の為と思い励みます。
- ・教員として初めて研修を受けました。そんな私でも分かりやすく説明していただいてありがたかったです。
- ・お話が分かりやすく、興味を持って聞くことができた。
- ・教育について改めて学ぶことができました。社会の変化に合わせて、新しい教育ができる人になれるよう、責任を持って学生を育てることができるよう、これから自己研鑽に励みたいと思います。
- ・日々、悩みながら迷いながら授業、実習、学生指導、研究をこなしていましたが、本日の先生のご講演から自分自身の進むべき道、やるべき事が明確に見えたように思います。先生のように笑顔絶やさず、学生を包み込む教員になりたいと思いました。
- ・心に響くご講演でした。
- ・看護実践の基盤に学士力があるという言葉が印象に残っています。学士力とはどのような力なのか理解できていない所もあったためもう一度振り返り理解を深めたいと思いました。
- ・大学教員の役割など、改めて日々の自分を振り返るきっかけになりました。FDの表を見て、自分もチェックをしたいと思います。
- ・学生の教育の視点と責務を再確認することができました。

2. 講演2「看護系私立大学とは—私学の特性と教育について—」 講師：井部俊子 先生

1) 講演の内容について

	人数	割合
大変満足	30	50%
満足	23	38%
やや満足	6	10%
不満足	1	2%
合計	60	100%



2) ご意見、感想など

- ・私立大学で教員としての仕事のこと、意識していかなければならないことを知ることが出来ました。知らなかったこともあり、勉強になりました。
- ・ウェットに富むお話で楽しく学べました。経営を意識（理解）し、自校の理解を深めて、多様な看護の生き方を支えていきたいと思います。
- ・大学教員に必要な法律を学ぶことができた。
- ・学生に対して、看護師や保健師などの道を常に考えていましたが、学生の将来を狭くさせないためにも他の視点も必要であることが良く分かりました。
- ・大学の経営の背景や法、制度について理解が深まりました。建学の精神を“形”にするのではなく、“力”に変えていく思考こそが大切であると再認識しました。
- ・教育にとどまらず、看護師としての自分を振り返ることができました。
- ・内容は良かった。先生の感情がよく理解できた。井部先生の発言は教育の場で参考になる。
- ・大変興味深かった。特にアジェンダ「本当の看護を求めて」のプロBLEMには、深い共感を得た。私自身も同様に感じ、実習を通してその思いは強くなった。現在 NPO の中で、患者・市民らと共に看護について検討している。そのうえで教員として学生と共に考えていきたいと思っている。今回の話から自信を持って実施していきたい。
- ・法律など自分たちが何を基として立っているか良くわかりました。
- ・建学の精神は知っていましたが、それが大学のカリキュラム等どう反映されているのか、改めて確認してみたいと思います。
- ・私立系大学の特色を生かしたい。時間をもう少しとると良いと思った。
- ・建学の精神を大切にすることの重要性を痛感しました。
- ・法律の話が難しく、具体的に新任教育としてこれに関わっていくのかが分からなかった。
- ・新任教員の教育が大切だと分かりました。今後も FD など積極的に参加したいです。
- ・一つ一つ法律に則っていることが理解できた。
- ・看護系私立大学で働く上で必要な法律などが学べた。
- ・大学としての位置付けや違い、法的な事なども含めてよく分かりました。
- ・一番心に残ったのは、学生に対する“エクスプローラー”の考え方です。つい、現場に出てからの適性など考えてしまうのですが、“多様なステージを歩む学生”とこれからは捉えて接してい

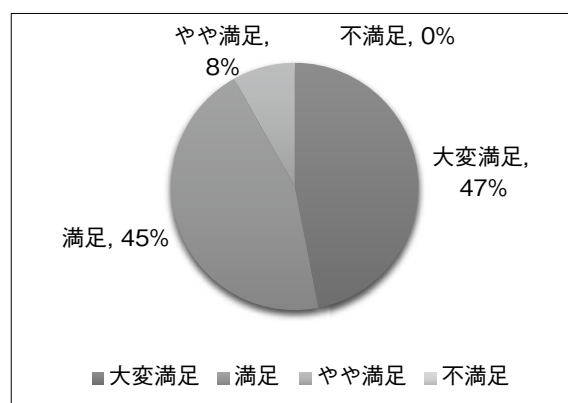
きたいと思いました。

- ・臨床から大学教員となったので、そもそも“私立大学とは”という基本を知ることができ良かったです。
- ・アジェンダより基本的な事が知りたかった。
- ・私立大学について学んだことは初めてでした。自分の所属している組織について知らないこともあったので、(寄付行為の詳細)学内に戻り学びたいと思います。「大学が増える中で、看護の質が上がっているか」という先生の言葉が脳に残りました。
- ・学生がいることで大学の運営が成り立っていることを改めて感じました。学生の力を引き出し人生を導けるような教員でありたいと思います。
- ・看護のアジェンダ毎日読んでいます。問題提起いただいたことを考えたいと思いました。
- ・建学の精神を理解することで自分が今どこに立っているのか少し理解が深まりました。
- ・私立大学がそもそもどういう法律や制度に基づいて設置されているのか、という視点から今まで考えたことがなかったので、そういった認識を自分の中に待ちたいなと思いました。
- ・大学教育の根本部分となるところを改めて学ぶことができました。

3. グループワーク

1) グループワークについて

	人数	割合
大変満足	23	47%
満足	22	45%
やや満足	4	8%
不満足	0	0%
合計	49	100%



2) ご意見、感想など

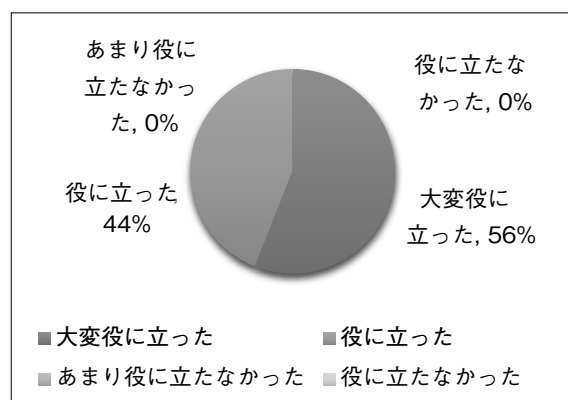
- ・他大学の教員の方と意見を交換することが初めてであったため考え方の違いや視点を学ぶことが出来ました。
- ・時間が足りないくらいでとても良い時間だった。
- ・不安を感じていることがあったが、グループディスカッションを通して共有でき、気持ちが昇華されて良かった。自分の教育観が広がった。
- ・多様なご意見、ご経験を聞くことができ、勉強になりました。
- ・講演 1. 2. 共に質の高い看護師が養成できるよう、研究や教育への工夫を念頭におくことが私学教員として必要になるということを自覚することができた。
- ・他大学の先生と交流を持つことができ、様々な意見を聞かせていただく機会となった。
- ・メンバーの本音を聞くことができ、大学の違いも分かり参考になった。
- ・目的が分かりにくかった。
- ・違う立場（経験年数や学校の歴史）で意見を出し合うことができた。

- ・とても建設的なグループワークでした。問題提起できた。
- ・色々な他大学の意見が聞けた。
- ・最初はグループワークに不安でしたが、楽しくできました。自分の学習や行動を今後することが少し明確になったので良かったです。5名グループ良かったです。
- ・とても良いグループワークができました。
- ・各大学での話も聞けて、同じ悩みを持つ先生と話ができて勉強になった。
- ・どの先生たちのご意見もきらきらしていました。とても参考になりました。
- ・他職種の方との意見交換ができて良かった。悩んでいる事が一致していた為、今後に活用したいと思います。
- ・自分だけが悩んでいるのではないと知れた。
- ・他大学の先生方と情報交換でき、大変良かった。
- ・色々な意見を聞けてすごく勉強になりました。
- ・様々な大学の方とお話ができて刺激をいただきました。
- ・普段、他大学の先生方と教育について話すことなどないので、非常に有意義な時間でした。教員としての悩みは皆さん同じような悩みを抱えておられ、その中で日々頑張っているということを感じ強く思いました。
- ・他大学での現状を聞くことができて、同じ悩みを持ちながら働かれていることに励まされ、目標を見つけることができて良かったです。
- ・もう少し他大学の先生方とお話する時間があると良いと思いました。
- ・同じ悩みを共有することでお互いに頑張ろうと思うことができました。このように他大学の方と交流する機会が今までなかったので貴重な経験でした。
- ・グループワークが無ければ、他大学の先生方と接する機会があまりないので、とてもいい時間になりました。

4. 研修会全体

1) 研修会全体について

	人数	割合
大変役に立った	28	56%
役に立った	22	44%
あまり役に立たなかった	0	0%
役に立たなかった	0	0%
合計	50	100%



2) ご意見、感想など

- ・看護職・看護教育として重要なこと、私立大学の特性と社会における位置付け（使命）を再確認できました。
- ・現在、修士課程に在籍しており、講義の中で大学教育について学ぶ機会がありました。それに

は、今回の研修会で講演していただいた内容と重複していることも多くありました。最低限おさえておかないといけないことも触れず、8か月が経過してしまいました。が教員としての責任を果たしていきたいと感じました。

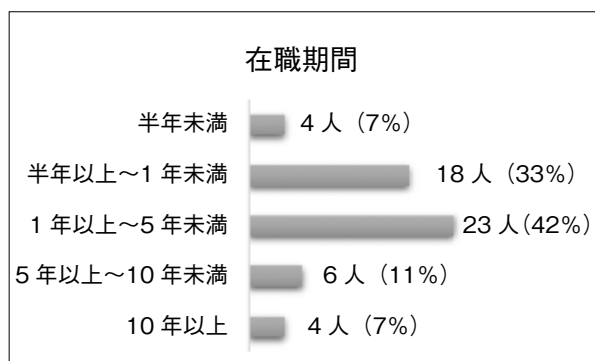
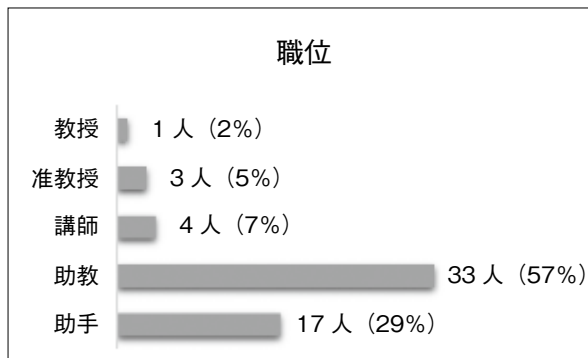
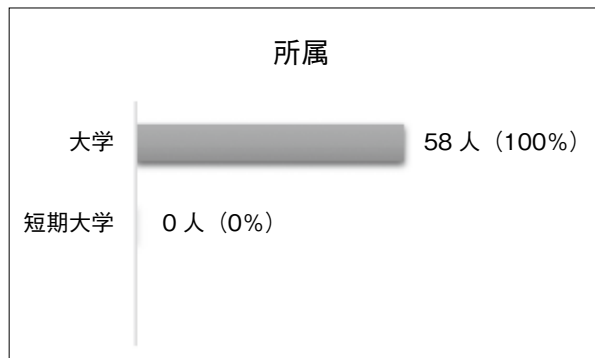
- ・大学教員で研究が必要と言われるが、その意味やポイントを教えていただいた。
- ・悩みを共有することで、新しい“答え”につながるように感じました。
- ・グループディスカッションも良いのですが、領域別に意見交換や懇親が出来る機会が欲しい。
- ・グループワークで様々な意見を聞くことができ、視点が広がった。
- ・大学の教員が初めてであったので、恥ずかしいが知らないこともあったことを知ることができ、今後の自分の仕事に向き合う良い指針となった。
- ・自分のやるべきことを見直すことができた。
- ・参加してすごく良かったです。
- ・自分に課されている課題を見つけられた。
- ・今回テーマを見て参加しようと思いました。興味深く聞くことができました。
- ・改めて、自分の大学教員としての課題や頑張りたいことが明確になり、とても有意義な研修会でした。明日からも頑張りたいと思います。
- ・大学に戻って、他の先生たちにも情報提供できればなと思いました。
- ・全グループ発表は始めから無理だったと思う。

5. 今後、本協会「大学教育委員会事業」で希望するテーマ、開催方法、開催時期、場所など

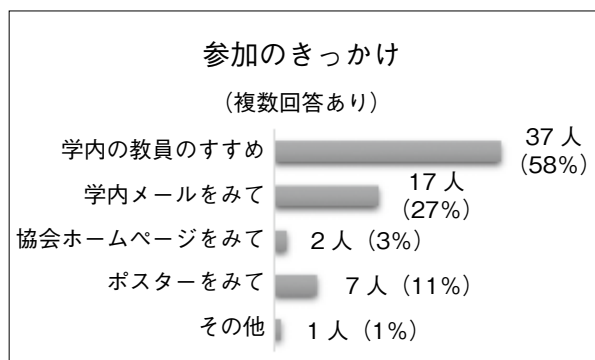
- ・新任教員以外のステップの研修会の実施
- ・外部資金取得講座について、できれば大阪・東京など希望。
- ・同じ内容を関東でもお願いしたいです。
- ・効果的な授業の組み立て方
- ・授業計画案の作成方法について
- ・11月頃に実施していただくと出席しやすかったと思う。
- ・福岡で開催していただけるとありがたいです。
- ・看護教員としてのクリニカルラダー研修があれば良い。
- ・実習がないので前期の方が参加しやすいです。
- ・初めて参加させていただいたのが同県内であり、大変助かりました。これからは東京以外の地方でも実施いただきたいです。
- ・事業計画及び模擬授業まで含めた研修を開催していただけたらと思います。グループディスカッションを縮めて、各講義をもう少し長くお聞きしてみたかった気持ちになります。
- ・もう少し具体的な教育方法の研修に参加したいです。
- ・研究について
- ・可能でしたら、開催時期を夏季休暇中等にできればお願いしたいです。（実習期間の為）臨地実習における新任（教員）の役割についてのテーマを希望いたします。
- ・希望するテーマは、「実習施設の臨床指導内容と大学が求めている実習指導内容のずれをどのよ

うに調整していくか」(大学病院が併設されていない大学の実習の場合、日々指導者が替わり、受け持ち患者の担当看護師が指導するため)開催時期は2～3月頃。場所は駅近く。(すぐ隣など希望)

6. 参加者について



7. 研修会への参加のきっかけ



一般社団法人日本私立看護系大学協会
「カリキュラム構築に向けたスキルアップを目指して」アンケート結果

参加者数：154 人 参加校数：76 校
アンケート回答者数：138 人（回答率：89.6%）

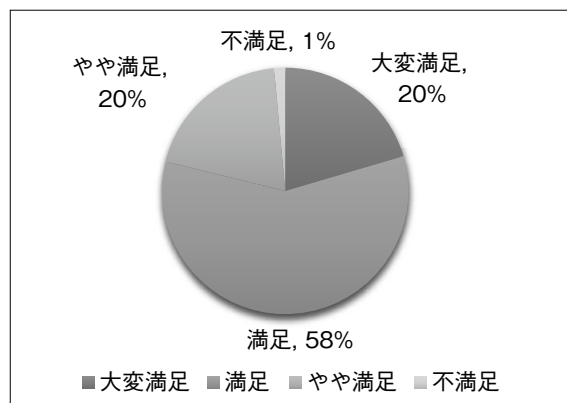
日時：2020 年 1 月 13 日（月）10:00 ～ 16:00

場所：アルカディア市ヶ谷 6 階

1. 講演 1「看護学教育モデル・コア・カリキュラムの活用ポイント」 講師：小山田恭子 先生

1) 講演の内容について

	人数	割合
大変満足	28	20%
満足	80	58%
やや満足	27	20%
不満足	2	1%
合計	137	100%



2) ご意見、感想など

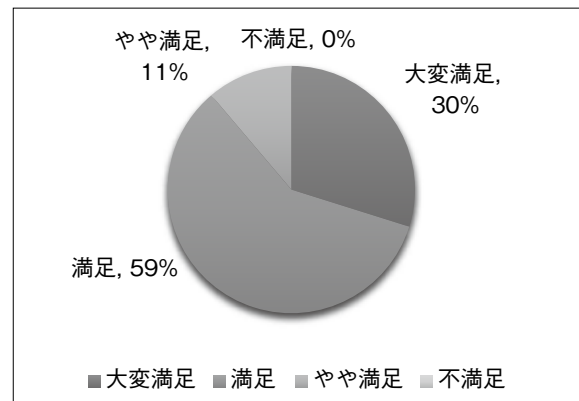
- ・具体的な活用の例がないと実施に結び付けるイメージがわきにくい。
- ・モデルコアカリキュラムの背景を知ることができた。
- ・やや一般的な内容に感じた。
- ・基本がわかりました。
- ・看護教育としてのカリキュラム構築に対する知見が必要であると考え。参照基準としてそれをどう示すことが出来るかが必要である。モデルコアカリキュラムに欠如していると考え。
- ・理解が深まった。
- ・新しいアイデアが湧いた。
- ・確認ができたのでありがたいです。
- ・基礎的内容も大切ですので良かったですが実際カリキュラム編成していく上でのやり方が聞きたかったです。
- ・復習になり、より明確になりました。
- ・モデルコアカリキュラム改訂する際の実例の例などをもっとあげて欲しかった。
- ・モデルコアカリキュラムとカリキュラムの関係性を改めて認識した。
- ・モデルコアカリキュラムの流れから意味やどう活用すると良いのかなど、詳しく聞け分かりやすかった。
- ・講演を聴いて、自分でもモデルコアカリキュラムを活用できるように思いました。とても勉強になりました。
- ・内容も良かったです。断片的な知識の隙間を埋める作業ができました。さらにディスカッションの時間で柔軟に考えることができました。

- ・モデルコアカリキュラムについて再確認することができました。新カリキュラムの検討の際に今回学んだことを活用していきたいと思います。まず各大学のポリシーを大切に、モデルコアカリキュラムを参考にすることで、質を担保した大学の特徴あるカリキュラムが出来ることが再認識できました。
- ・分かりやすく説明してくださったので、理解できました。そうなのかなと思うこともありました。
- ・活用のポイントでFDで活かす方法等が知れて良かったです。また、改めてモデルコアカリキュラムの背景が整理できました。
- ・モデルコアカリキュラムによるカリキュラム改正をする前にお聞きするべきでした。
- ・グループワークで深められた。
- ・ほぼ復習でしたが、再確認できました。今回の指定規則改正について大学としてどう考えたらよいか参考になりました。
- ・モデルコアカリキュラム策定の背景を理解することができた。活用の基準がイメージできた。裁量権の範囲が明確になった。
- ・自学に戻って、取り組むべきことがイメージできた。
- ・カリキュラム構築に向けてのリソースがよく理解できました。
- ・指定規則の変更によるカリキュラム編成のことを検討できる情報を得られたので良かったです。
- ・横のつながり、情報交換の機会が大事という実感を学びました。
- ・色んな誤解を修正できた。
- ・ポイントが理解できた。
- ・学生の望ましい姿を描く力が重要であること、それを皆で共有することが改めて必要であることを学べた。
- ・基本的な内容ではあったが肩の力が抜けた。大学の理念とコアコンピテンシーとの関係が再確認できた。
- ・カリキュラム構築に向けてどう考えていけばよいのか参考になりました。
- ・モデルコアカリキュラムの位置付けが非常に分かりやすく説明されており、参考になりました。
- ・こちらの研修のレベルには少し至らず事前の学内の情報が不足することもあったので、今回のテーマで不明に思ったことは、学内で改めて情報を整理したいと思いました。
- ・自分たちの課題の整理になった。
- ・モデルコアカリキュラムの基礎的知識が身に付きました。
- ・新設で完成年度なのでとても参考になった。
- ・モデルコアカリキュラムについて再度、内容を見直す機会になった。
- ・カリキュラムに対する頭の整理になり、ためになりました。
- ・よく分かりました。
- ・カリキュラムの改正において疑問に思うこと、方向性、スタンス等がわかって有意義でした。

2. 講演2「3 ポリシーをふまえたカリキュラム評価をどのように行うか」 講師：山田剛史 先生

1) 講演の内容について

	人数	割合
大変満足	40	30%
満足	79	59%
やや満足	15	11%
不満足	0	0%
合計	134	100%



2) ご意見、感想など

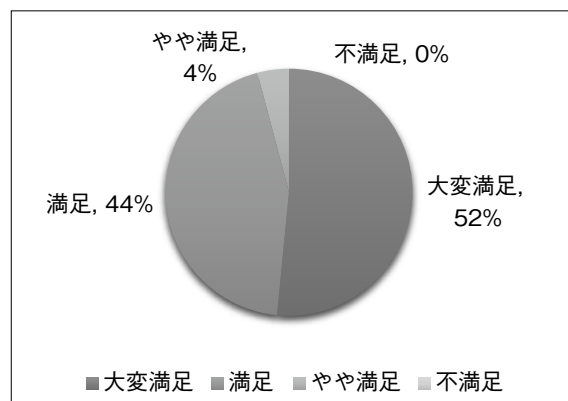
- ・ 今後の取り組み課題と方向性について確認することができた。
- ・ 実践してみます。
- ・ 視点を得られた。
- ・ もっと聞きたいです。
- ・ 方法のヒントを頂きました。
- ・ 評価について色々わかりました。
- ・ 評価についてこれから考えていかなければいけないので大変参考になった。
- ・ 評価にあたっては「負担を考え、効率的に、という言葉が印象に残りました。
- ・ ルーブリックについてよいヒントを頂きました。
- ・ 評価と聞くと「難しい」と思うのですが、段階的に少しずつ進めていくなど方法も聞けてよかったです。
- ・ 大枠は分かりました。
- ・ 自分の大学に置き換えながら考えることができました。
- ・ 評価については、出来るところからということで、学科全体で実習のルーブリックを作成してみたいと考えました。
- ・ やや難しかった。
- ・ ほぼ大学で取り組みをしているので、再度振り返ることができた。とても内容は役立つことができるのではないかと思います。
- ・ 評価について分かりやすく説明くださいました。
- ・ とても分かりやすい明確な内容であった。評価の視点やポイントについて学ぶことができた。
- ・ ちょうど大学でポートフォリオについての議論が進められているので概要の位置づけが分かって良かったです。
- ・ 分かりやすかったです。
- ・ 具体的な事例があった。
- ・ 具体的な話が参考になった。
- ・ カリキュラム評価は本当に気が重かったのですが、いくつか具体的な方法がイメージでき、実施してみたいと思えました。

- ・すべてを評価する必要がないことが分かり、できそうな部分があることが分かった。
- ・まだカリキュラム評価のために把握できていない点、評価を経年別や項目ごとにつなげられていないので帰ってその点を見直す予定です。
- ・カリキュラム評価の方法、工夫について具体例を通して理解できました。
- ・評価の重要性を実感した。
- ・具体的な話が聞けて良かった。
- ・評価の考え方は理解できた。現在作業中であり参考になった。
- ・評価方法について整理していただいたので参考になりました。
- ・内容が豊富でグループワークも入って他学の情報も得ることができた。
- ・日々、疑問に思っていたことがクリアになりました。
- ・現状社会、教育の流れと3ポリシーが非常に分かりやすくまとまっておりイメージが付きやすかったです。また、利点・欠点、取捨選択、課題点が具体的に明示されており、本学に落とし込める。
- ・評価について、色々な視点からのお話で自分の中で理解することに役立った。
- ・多様な能力を捉えるための学習効果アセスメントを見て、今まで意識していなかった単位・学位取得なども評価の1つであることを知りました。職員による評価の比重も大きいので、協働がますます重要と思いました。
- ・自分たちの課題の整理になった。
- ・評価の具体性がイメージを持つことができました。
- ・もう少し具体レベルの方が良かった。
- ・本学ではカリキュラムについて教員間での情報共有不足があるため、まずそれから実施した。
- ・一度領域の壁を越えたカリキュラム評価が必要だと感じました。
- ・今更聞けないことの解説もあり、興味深かったです。

3. グループワーク

1) グループワークについて

	人数	割合
大変満足	50	52%
満足	43	44%
やや満足	4	4%
不満足	0	0%
合計	97	100%



2) ご意見、感想など

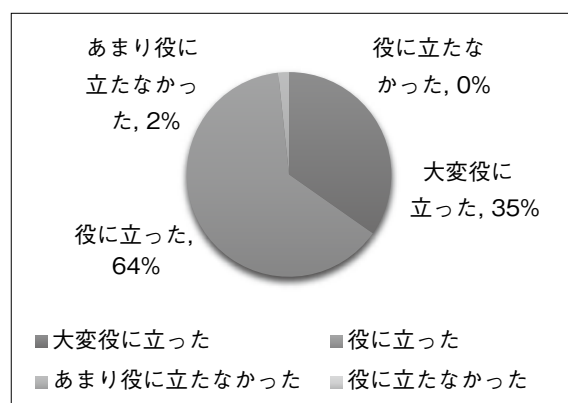
- ・他大学のカリキュラムの情報を頂け参考になった。
- ・様々な大学の事情が分かり、課題と工夫点も認識することができた。
- ・参考になりました。

- ・色々な意見を聞くことができて勉強になりました。疑問も解決できました。
- ・具体的な疑問点・問題点を話し合うことができ、現状・課題を知り、本学のカリキュラムについて考えるきっかけとなった。
- ・カリキュラム改正に対し、直接関わる先生方より、困難についてお伺いできました。FDでの学科共有が重要と考えた。
- ・他大学の工夫の実際を伺うことができた。アプローチの仕方、導入のプロセスなど。
- ・色々なアイデアを得ることができました。
- ・色々な視点でディスカッションできて良かった。
- ・他大学からの情報を頂き、本学カリキュラムに活かしたいと思った。
- ・悩みは同じ、さてどうするか覚悟が必要ですね。
- ・各大学での情報で考え方の参考になった。
- ・本学は単科に近い大学なので他学部もある大学の話が参考になった。
- ・他大学の状況が分かりました。

4. 研修会全体

1) 研修会全体について

	人数	割合
大変役に立った	41	35%
役に立った	75	64%
あまり役に立たなかった	2	2%
役に立たなかった	0	0%
合計	118	100%



2) ご意見、感想など

- ・タイムリーなテーマだったと思います。
- ・今後に役立った。カリキュラム改正に向け参考になった。
- ・今知りたいこと、学びたいことを研修してもらえていると思っています。
- ・ループリックについて学びを深めることができた。グループワークが大変有意義な時間であった。参考になり、勉強することが多かった。また参加したい。
- ・駅から近くて良かった。
- ・モチベーションを高められた。
- ・参加者の方々とディスカッションできたので、理解が深まった。
- ・他大学の状況が知れて良かった。
- ・グループワークがあったので疑問に対する回答を得ることができました。
- ・他大学の先生との情報交換ができて良かった。同じ悩み、組織上の課題を抱えていることがわかった。
- ・カリキュラムについてグループ内の大学の実状がよく分かりました。

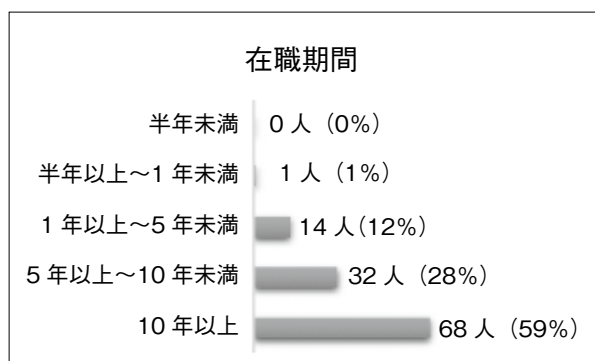
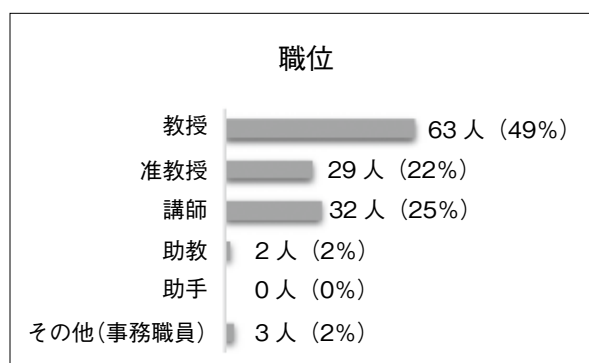
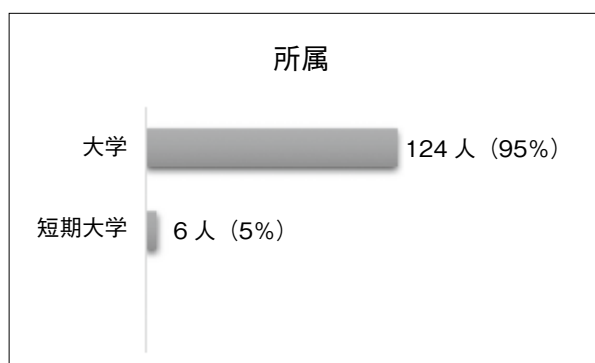
- ・今まさにカリキュラム改正予定なのでとても参考になりました。
- ・私立大学の特殊性が理解できた。柔軟な考え方でもカリキュラムを考えるという意味が分かり、充実した内容になった。
- ・私学に特徴的な各大学の事情を知ることができた。
- ・受講者のレベルを分けてもらった方がよいと思いました。
- ・これからカリキュラム改革に取り組むため参考になった。
- ・各大学の実情が分かった。新たな情報で今後の考え方の参考になった。
- ・他校の情報や先生方のご意見が聞けて勉強になりました。
- ・2つのご講演から多くのことを学ぶことができました。他の大学の取り組みについて伺うことができてとても良かったです。

5. 今後、本協会「大学教育委員会事業」で希望するテーマ、開催方法、開催時期、場所など

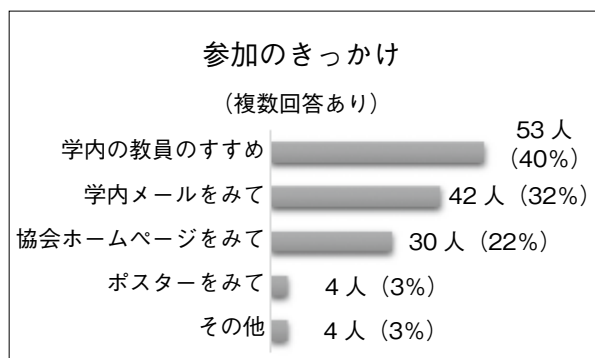
- ・ループリック等、評価の研修
- ・カリキュラム改正に関する情報提供
- ・実習をどのように組み立てるか
- ・3連休のどこかであれば参加しやすいです。大阪ぐらいだとありがたい。
- ・カリキュラムや教育方法について大阪でも開催していただきたいです。
- ・開催場所は良いです。
- ・モデルコアカリキュラムとの整合性、確認のため、指定規則改正に伴う研修を早期にお願いします。
- ・関西地域での開催もお願いします。
- ・短期大学の学長や事務局長への勉強会をお願いします。
- ・カリキュラム開発について
- ・内部質保証について
- ・看護教員の人材育成について
- ・大学教員は教育のための育成については各大学や修士課程などで学ぶ機会のない人が多い。教員として必要な知識技術について検討して、テーマを1つずつ学べるようにしてほしい。例えば5つのテーマが必要なら①～⑤までを2年で修得できる等計画的に取り組んで欲しい。
- ・地域連携・チーム医療についてのカリキュラム
- ・教育方法の検討について
- ・カリキュラムの具体的なものや、作成途中のものなどを持ち寄って検討できるような場があると良いのではないかと思います。また、継続的に検討できる場があると良いのではないかと思います。
- ・大阪の方面でも開催していただきたい。
- ・大学教員に求められる資質
- ・実習指導について、臨地との協同
- ・実習指導の評価方法について
- ・カリキュラムの基本的な考え方など、基本的な事について学びたい。

- ・教員の質低下が目立っているので、大学教員としての資質に関する講演
- ・1月が入試期間なので調整付けてもらうのが大変でした。可能であれば入試期間（1月・2月）は避けて頂きたいです。
- ・厚生労働省の指定規則改正の解説、意図など。
- ・新任教員に対するカリキュラムに関する基礎知識
- ・大変勉強になりました。カリキュラム系の研修を引き続きお願いいたします。
- ・この時期で妥当だと思う。
- ・この時期の開催は集まりやすいと思いました。会場も良いと思います。
- ・その時の問題となる課題を提案していただける研修会ですとありがたいです。
- ・地方開催（サテライトも可）してほしいです。
- ・大阪からの参加でしたので10時開始は早いなと思いました。

6. 参加者について



7. 研修会への参加のきっかけ



- (その他)・教務カリキュラム委員として
- ・カリキュラム改正にあたってワーキングのメンバーだったため
 - ・学内の仕事として

2. 研究活動委員会

1. 趣旨

- ①教員による研究費獲得の向上、学術研究の大学内環境や条件を向上するための方策の調査研究
- ②研究助成と研究ネットワークづくり
- ③研究に関するセミナー、研修会等の実施
- ④上記①～③に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

島袋 香子（北里大学）

高見沢 恵美子（関西国際大学）

○野並 葉子（神戸女子大学）

堀内 ふき（佐久大学）

（委員）

佐藤 紀子、森本 彩（佐久大学）

佐藤 律子、西 桂子（北里大学）

（研究助成選考委員）

小長谷 百絵（上智大学）、佐々木 綾子（大阪医科大学）、高橋 泉（駒沢女子大学）、

原 礼子（関西福祉大学）、三澤 寿美（東北福祉大学）、森崎 直子（姫路大学）、

吉田 久美子（高崎健康福祉大学）、吉田 みつ子（日本赤十字看護大学）

3. 活動報告

(1) 【学術研究および学術研究体制に関する事業】

日本私立看護系大学における教育・研究の充実向上をはかるために、学術研究および学術研究体制に関する事業として、会員校からの要望に応じて2回の研究セミナー（東京・大阪）を開催した。第1回研究セミナーでは、研究助成事業に関する事業の平成27・28年度日本私立看護系大学協会助成による研究10件の成果報告会を同時に開催した。

第1回 研究セミナー

開催日時：2019年9月21日（土） 10：00～16：00

会場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

プログラム：

10：05～10：10 開会のあいさつ

10：10～10：20 2019年度研究助成の応募状況および選考結果の報告 島袋 香子

10：20～11：35 平成27・28年度日本私立看護系大学協会助成による研究成果報告会（第1群）
座長：堀内 ふき

12：35～13：50 平成27・28年度日本私立看護系大学協会助成による研究成果報告会（第2群）
座長：高見沢 恵美子

14:00～15:30 講演 看護研究の目的別アプローチ

「看護研究におけるエスノグラフィーの意義とオリジナリティの探求」

講師：波平 恵美子 氏（お茶の水女子大学 名誉教授）

座長：野並 葉子

15:30～15:40 閉会のあいさつ

日本私立看護系大学協会大島弓子会長からの挨拶文を野並葉子理事が代読し、第1回研究セミナーは67名の参加者を得て開催した。

動画配信期間：2019年11月27日～2020年2月27日 視聴数：475件

第1部 平成27・28年度若手研究者研究助成による研究成果報告

1. タッチパネルを使用した課題におけるリフレクション方法の違いが看護師の注視と判断に与える影響

西村 礼子（東京医療保健大学） *採択時は東京医科大学 所属

2. 爪装飾による手指細菌汚染の実態と病院感染伝播防止に関する研究

金坂 伊須萌（東邦大学看護学部）

3. 脳卒中患者に対する包括的リハビリテーション旅行プログラムの評価指標開発

高井 怜（東邦大学看護学部）

4. 新生児を育てる母親のハーディネスとストレス変化の関係—出産後入院中と産後1か月の継続調査—

今野 和穂（帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科）

5. 下肢人工関節置換術後の高齢者の退院後早期の転倒を予防する包括的転倒予防プログラムの開発

金盛 琢也（日本赤十字豊田看護大学） *採択時は聖路加国際大学 所属

6. 妊娠糖尿病既往女性の母乳育児が糖負荷試験に与える影響

川崎 有紀（関西医科大学） *採択時は甲南女子大学 所属

7. 女性看護師の冷えと就労環境・生活環境との関連について

鈴木 みゆき（兵庫医療大学）

8. 慢性疾患患者・児がいる家族を支援する看護師の家族コンコルダンス形成力の概念構築

高谷 知史（大手前大学） *採択時は兵庫医療大学 所属

9. 新生児蘇生の実践力を維持する再履修教育構築のための基礎的研究

徳永 智美（大和大学） *採択時は四条畷学園大学 所属

10. プリセプター看護師の役割遂行状況に及ぼす影響要因

種本 純一（日本赤十字北海道看護大学）

第2部 看護研究の目的別アプローチ

「看護研究におけるエスノグラフィーの意義とオリジナリティの探求」

講師：波平 恵美子 氏（お茶の水女子大学 名誉教授）

67名の参加者を得て、90分の講演ならびに質疑応答をおこなった。はじめに、波平先生はエスノグラフィーの方法論を採用すると、「エスノグラフィーマインド」を獲得できると示し、エスノグラフィーマインドがないとエスノグラフィーの方法論は難しいと考えがちな看護の研究者を励まし、さらに、手が付けられていないフィールドを対象とするので、オリジナリティの確保は容易になると勇気を与えてくれた。そのうえで、①「エスノグラフィー」の歴史とその展開、②「エスノグラフィー」の意味の拡大と多方面での採用、③「エスノグラフィー」の方法論での注意点、④看護研究におけるエスノグラフィーの意義についてお話いただいた。質疑応答では参加者から具体的な研究データの収集や分析などについての質問が多数だされ、丁寧に説明を加えて助言をいただき、エスノグラフィーについて理解が深まった。

アンケート結果から、約98%の参加者から今回の講演について有意義であったと回答が得られた。さらに、「エスノグラフィーの真髄、方法論、考え方に触れることができて大変面白かったです。」「文脈理解について、とても理解できた。」「とても分かりやすくてよかったです。」など貴重な意見をいただいた。

第2回研究セミナー

看護研究の目的別アプローチ「ケア・いのち・エスノグラフィー」

講師：小田 博志 氏（北海道大学大学院文学研究院 教授）

開催日時：2020年2月15日（土） 14：00～16：00

会場：大阪医科大学

参加者：71名

動画配信期間：2020年3月11日～2020年6月12日 視聴数：300件（2020年3月31日時点）

小田先生は、先生ご自身がエスノグラフィーに導びかれていかれたように、参加者をエスノグラフィーの世界に導いていくように話をすすめた。その中には、参加者が研究を進めていくための多くのヒントが埋め込まれており、さらに参加者が多くの「問い」を思い浮かべることができた内容だった。はじめの、「質的研究とは何なのか」「フィールドワークとはなにか」という話に続いて、研究課題「研究者はどこに関心があるのか」について、エスノグラフィーは「標準化・規格化」に抗する自由度の高い方法論であり、人間文化と自然をつなぐもの“いのち”に関心を向けていく、人々が生きている現場に近い研究であることを示した。その人々が生きている現場として、①リンゴの自然栽培の話 ②不登校の子供たちの話 ③整体の話をされた。前半を受けて後半では、研究者が“いのち”に向き合う姿勢を“いのち”とはどういうことかという「問い」のもとに、“いのち”の自発性「おのずから」動きがみられること、つながりのなかで“いのち”をとらえることを示した。その研究例として①南方熊楠と縁 ②アンデス先住民が暮らす共同体 ③徳島海部町の調査などをあげた。最後に、研究の分析では、つながりのなかでみる（文脈を理解する・生きている世界を想像する）、ことばで表現する（腑に落ちる・納得できる・フィットする・しっくりくる）などを示し、現場の“いのち”を感じとることの重要性をあげた。

アンケート結果からは、約95%の参加者から今回の講演について有意義であったと回答が得られた。具体的には、「目からウロコの話だった」「エスノグラフィーの奥深さがよくわかった」「も

う少し本の内容も聞きたかった」「西日本での開催で出席しやすかった」という多数の意見をいただいた。また、参加者を調べた結果、71名のうち教授21名、准教授10名、講師12名、助教8名、助手1名、その他2名となっており、参加者のキャリアが幅広く、今後は対象を絞った企画も検討する必要がある。

(2) 【研究助成事業】

2019年度の看護学研究奨励賞、若手研究者研究助成、国際学会発表助成の募集を4月1日～5月31日に行い、書類審査の上、6月29日に選考委員会で選考した結果を第2回定例理事会に提出、助成者を決定した。8月から助成金の交付を行い、9月21日の「研究セミナー」で研究助成の募集および選考結果の報告を行った。

1. 2019年度研究助成事業選考結果

1) 看護学研究奨励賞

14件の応募があり、以下8件採択した。

氏名	所属	論文名	掲載誌
荒川 尚子	中部大学	Construction and usability of community health nursing database in rural north-eastern Thailand.	International Nursing Review 2018 Dec;65 (4): 515-523
岡 美雪	聖路加国際大学	Effects of a job aid-supported intervention during antenatal care visit in rural Tanzania	International Journal of Africa Nursing Sciences 10 (2019) 31-37
佐藤 恵	岩手保健医療大学	Development of a Japanese version of Salmon's Item List suitable for comparing satisfaction with childbirth experience between different modes of delivery	Journal of Japan Academy of Midwifery, Vol.32, No.2, 2018
田中 美加	北里大学	Effects of Brief Cognitive Behavioral Therapy for Insomnia on Improving Depression Among Community-Dwelling Older Adults: A Randomized Controlled Comparative Study	Worldviews on Evidenced-Based Nursing, 2019; 16: 1, 78-86.
玉木 朋子	武庫川女子大学	The effectiveness of end-of-life care simulation in undergraduate nursing education: A randomized controlled trial	Nurse Education Today 76 (2019) 1-7
朴 相俊	佐久大学	Relationship between healthy elderly individual social capital and health according to ward level in Tomi city, Nagano prefecture: An ecological study.	Journal of Rural Medicine 2019; 14 (1): 64-72
増澤 祐子	東京医療保健大学 千葉看護学部	Prophylactic management of postpartum haemorrhage in the third stage of labour: an overview of systematic reviews	BMC Systematic Reviews (2018) 7: 156

渡辺 真弓	関東学院大学	Subtypes of overtime work and nurses' fatigue, mental status, and work engagement : A latent class analysis of Japanese hospital nurses	Journal of Advanced Nursing 2019; Vol.75, 10: 2122-2132
-------	--------	---	---

2) 若手研究者研究助成

17 件の応募があり、以下の 8 件を採択した。

氏名	所属	研究テーマ
伊藤 慎也	北里大学	放射線被ばくに伴う「将来の妊娠出産への不安」と関連要因の検討
岩田 尚子	東京医科大学	学士課程の在宅看護実習に関わる訪問看護師による学生の学習意欲を高める臨地実習指導の在り方
桑原 良子	聖路加国際大学	慢性心不全を有する高齢者の薬剤自己管理ノートの開発と評価
田中 裕子	北海道医療大学	北海道胆振東部地震を経験した保健師からみた減災に有用な平常時の保健師活動
常国 良美	関西福祉大学	成人期以降の加齢による体調変化のある在宅重症心身障がい児・者を介護する母親の将来への思い
土井 智子	名古屋学芸大学	パーキンソン病患者における便秘と Quality of Life との関連に関する研究
福田 友秀	共立女子大学	記憶のゆがみを持つ ICU 入室患者を早期発見する看護師の察知に関する研究
松尾 尚美	城西国際大学	高齢心不全患者と共有できる意思決定支援の構造化に関する研究

3) 国際学会発表助成

3 件の応募があり、3 件採択した。

氏名	所属	発表論文名	学会名および開催地
青木 裕見	聖路加国際大学	Development of a patient decision aid for adults newly diagnosed with attention deficit hyperactive disorder (大人の注意欠如・多動症 (ADHD) の当事者と医療者が一緒に活用できる治療選択の手引きの開発)	10th International Shared Decision Making 2019 (ISDM) / Canada
鈴木 大地	城西国際大学	Health Effects of Secondhand Smoke on Maternal and Perinatal Outcomes in Tomohon City, North Sulawesi, Indonesia (インドネシア共和国北スラウェシ州トモホン市における受動喫煙が妊婦と周産期のアウトカムに及ぼす健康への影響)	ICN Congress 2019/ Singapore
中田 かおり	東邦大学看護学部	Effectiveness of a Breastfeeding Program for Back-to-Work Mothers in Japan (日本における仕事復帰後の母乳育児継続を目的とした出産後の女性に対するプログラムの評価)	第 23 回 EAFONS 2020/ タイ

2. 研究助成事業の応募状況と採択結果

【2015（平成 27）年度から 2019 年度】

年 度	看護学研究奨励賞		若手研究者研究助成		国際学会発表者助成		助成金総額 (千円)
	応募者数	受賞者数	応募者数	受賞者数	応募者数	受賞者数	
2015（平成 27）年度	10	5	25	10	8	3	4,100
2016（平成 28）年度	2	0	18	10	9	4	3,800
2017（平成 29）年度	8	4	20	10	5	2	3,800
2018（平成 30）年度	13	5	38	9	16	6	6,100
2019 年度	14	8	17	8	3	3	4,832
合 計	47	22	118	47	41	18	

看護学研究奨励賞 1 件：100,000 円

若手研究者研究助成 1 件：上限 500,000 円

(2015（平成 27）年度 300,000 円、2018（平成 30）年度より 500,000 円、2019 年度より上限 500,000 円)

国際学会発表者助成 1 件：200,000 円

(3) 【会議の開催】

研究助成選考委員会

日時：2019 年 6 月 29 日（土） 11 時～ 14 時

場所：日本私立看護系大学協会事務局

出席者：(理事) 野並 葉子、島袋 香子

(選考委員) 小長谷 百絵（上智大学）、佐々木 綾子（大阪医科大学）、

高橋 泉（駒沢女子大学）、原 礼子（関西福祉大学）、

三澤 寿美（東北福祉大学）、森崎 直子（姫路大学）、

吉田 久美子（高崎健康福祉大学）

欠席者：(選考委員) 吉田 みつ子（日本赤十字看護大学）書類審査のみ

議題：2019 年度研究助成の選考

1) 看護学研究奨励賞

2) 若手研究者研究助成

3) 国際学会発表助成

第 1 回研究活動委員会

日時：2019 年 9 月 21 日（土） 9：10～9：30

場所：アルカディア市ヶ谷 5 階 赤城（東）

出席者：野並 葉子、島袋 香子、高見沢 恵美子、堀内 ふき

・研究助成の不正への対応について検討した。

・研究セミナーについて、平成 29（2017）年度若手研究者研究助成採択者（報告書提出：2019 年 8 月 31 日）と平成 30（2018）年度若手研究者研究助成採択者（報告書提出：2020 年 3 月 31 日）は報告書の提出期限が変更されたため、2020 年度研究セミナーでは、両年度の採択者が研究成果報告をする。採択者は研究セミナー関東地区・関西地区いずれか所属校から近い地区

で開催される研究セミナーにおいて研究成果報告をすることとなった。

第2回研究活動委員会（Web 会議）

日時：2020 年 1 月 17 日（金）

出席者：野並 葉子、島袋 香子、高見沢 恵美子、堀内 ふき

・第2回研究セミナーの打ち合わせ及び2020年度研究活動委員会事業計画について検討した。

4. 今後の課題

- ①会員校における看護学研究者の育成のために日本私立看護系大学協会研究助成事業の整備を行う。
- ②会員校の教職員が参加しやすい研究セミナー等の開催について検討する。

一般社団法人日本私立看護系大学協会

「研究セミナー」アンケート結果

参加者数：67人 参加校数：41校

アンケート回答者数：53人（回答率：79.1%）

日時：2019年9月21日（土）10:00～15:40

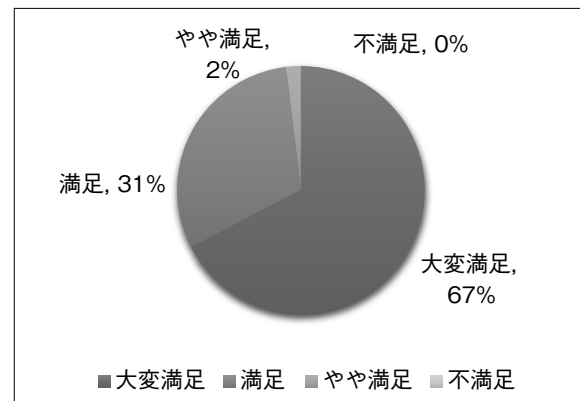
場所：アルカディア市ヶ谷

1. 講演会「看護研究におけるエスノグラフィーの意義とオリジナリティの探求」

講師 波平恵美子 先生

1) 講演の内容について

	人数	割合
大変満足	35	67%
満足	16	31%
やや満足	1	2%
不満足	0	0%
合計	52	100%



2) ご意見、感想など

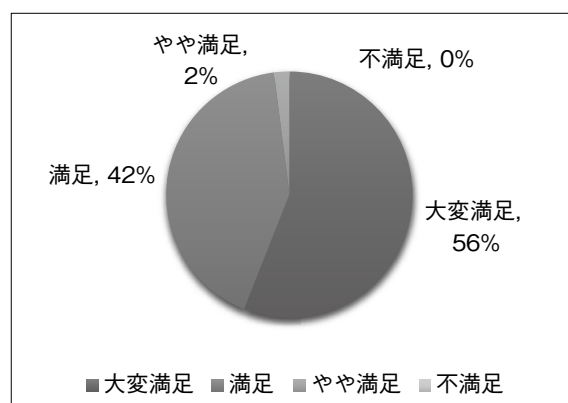
- ・以前、先生のお話をうかがっておりましたので本日、さらに深めることができました。
- ・もっと長時間でも良いと思いました。
- ・とても分かりやすく良かったです。
- ・抄録が当日であったために、当日だけでは深く考えが及ばなかったのが残念です。
- ・エスノグラフィーについて勉強してみたいと感じました。
- ・エスノグラフィーの重要なエッセンスを事例と共に丁寧にご講演下さってとても興味深く聞かせていただきました。
- ・エスノグラフィーの真髄、方法論、考え方に触れることができて大変面白かったです。より興味を持ちました。
- ・波平先生のご講演を聞けることはとても貴重な経験でした。
- ・文化人類学の指導教員についていますが（博士後期課程）看護でどのような進め方が良いのかを知ることができました。
- ・波平先生の著書はいくつか読ませていただいています、エスノグラフィーの基本、重要なポイントを改めて理解できました。
- ・大変勉強になりました。
- ・内容が概論だったので、もう少し実際の研究法が聞きたかったかなと思いました。
- ・先生のご経験や具体的なエピソードを混ぜながらお話して下さったので分かりやすかったです。医療者ではないお立場からのご説明でしたので大変勉強になりました。
- ・文脈理解について、とても理解できた。具体例を出され、わかりやすかった。

- ・波平先生のお話は1つ1つが納得できるものでした。私は、質的研究をしています「相対化する」という視点が欠けています。先入観を払拭することが大切だと改めて思いました。また、分析内容が妥当性を持っている事を示すために先行研究を実施することの大切さを改めて学びました。
- ・学生の頃に研究を学び始めた時の「step by step」の著者である先生から、今も謙虚に研究し続けるマインドを学ぶことができ、とても嬉しく有意義でした。
- ・歴史的背景、先生ご自身の体験を話して下さった為、とても分かりました。もう少し長く拝聴したいと思うほど、あっという間でした。
- ・波平先生のご講演が大変素晴らしく、分かりやすかった。
- ・エスノグラフィーについて初めて詳しく聞くことが出来ました。
- ・波平先生の経験をまじえ講演いただき大変分かりやすかったです。
- ・自分の博論の参考になる内容でした。
- ・とてもじっくり学ぶことができた。

2. 企画

1) 企画について

	人数	割合
大変満足	28	56%
満足	21	42%
やや満足	1	2%
不満足	0	0%
合計	50	100%



2) 意見、感想など

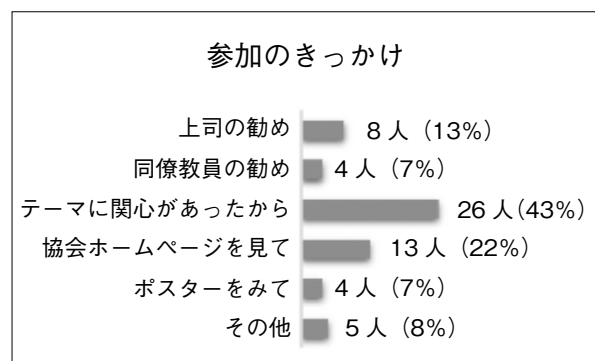
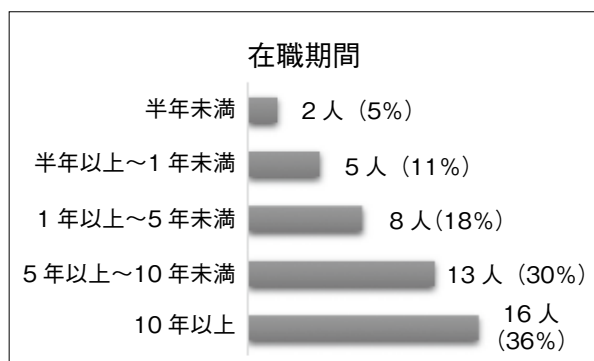
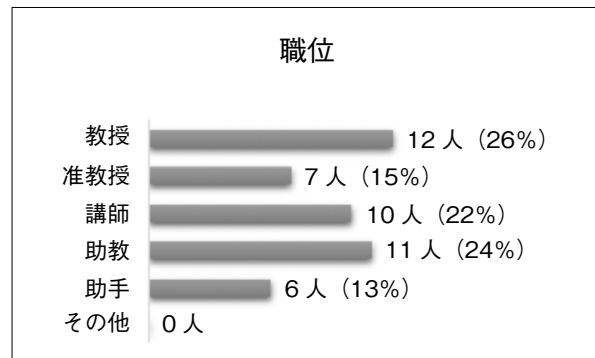
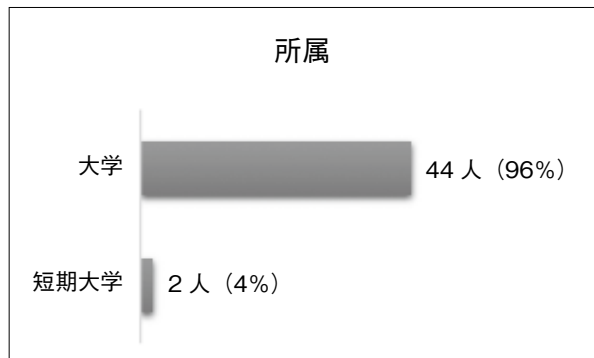
- ・研究を行うテーマを探す上でも励ましを頂きました。
- ・エスノグラフィーマインドがよく伝わった素晴らしい講演でした。そして、とても大切に言葉を選んでいる人柄こそが、質的研究者の資質を学んだように感じました。
- ・研究を始めたばかりなので、大変役立つものでした。
- ・看護研究方法論の教授に役立つ
- ・他の教員の研究の発表を聞き、参考になりました。
- ・論文指導にも活かせる内容だった。
- ・様々な研究の視点があり、大変役立った。
- ・素晴らしい企画（ご講演）でした。
- ・研究助成による研究発表もとても勉強になりました。教員は「教育」「研究」「地域貢献」「組織運営」と4つの柱をバランスよく遂行することが求められると思っていますが、なかなかできません。発表された先生方は、バランスよくやっておられるのでとても驚きました。「できない」のではなく、どのようにしたらできるようになるのかを考えるきっかけとなりました。

- ・研究の初心者として、とても勉強になりました。
- ・波平先生の貴重なお話をうかがえて良かったです。

3. 今後、本協会「研究活動委員会」で希望するテーマ、開催方法、開催時期、場所など

- ・関西圏でもお願いします。
- ・若手研究者を対象にした論文投稿や研究費獲得、査読対応のコツなどの研修会開催。他大学の看護教員との交流、情報共有の場が欲しい。
- ・地域におけるエンド・オブ・ライフケア
- ・研究法の実際、若い人が分かりやすいもの。
- ・他大学の先生と交流できるような構成のセミナーがあると嬉しいです。
- ・希望としては、関西でも開催して頂きたい。
- ・都内（この会場）は大変便利で良いと思います。
- ・会場はアルカディア市ヶ谷で、麻原きよみ先生からエスノグラフィーについての講演をお願いしたい。
- ・今回のような研究方法に関するテーマが良いです。青山学院大学の抱井尚子先生のお話が聞きたいです。
- ・会の進め方として、講演を聞いた後、少し（2～3分でも）近くの人と話をしてから全体で質問を受けると、フロアからも声を出しやすいように思います。
- ・カリキュラムの改善をするための方法論など
- ・統計処理に関すること
- ・教育方法についてをテーマに様々な示唆が得られるような機会があると嬉しいです。
- ・私大は学会や学校行事と重なり参加が難しい人もいると思う。

4. 参加者について



一般社団法人日本私立看護系大学協会

「研究セミナー」アンケート結果

参加者数：71人 参加校数：50校

アンケート回答者数：64人（回答率：90.1%）

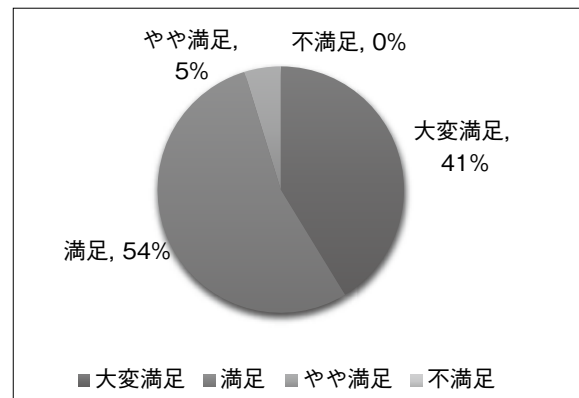
日時：2020年2月15日（土）14:00～16:00

場所：大阪医科大学 本部北キャンパス講堂

1. 講演会「ケア・いのち・エスノグラフィー」講師 小田博志 先生

1) 講演の内容について

	人数	割合
大変満足	26	41%
満足	34	54%
やや満足	3	5%
不満足	0	0%
合計	63	100%



2) ご意見、感想など

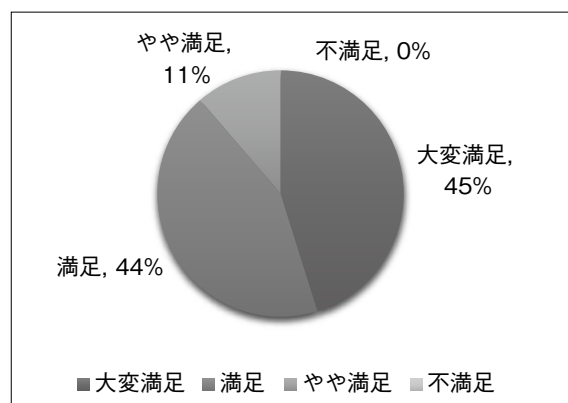
- ・目からウロコのお話でした。客観性、再現性を問われ続ける世界に身を置いているので考えさせられる内容でした。
- ・そうだったのか、という気づきがたくさんありました。私がなんとなく感じていたことを言語化していただいた講演でした。
- ・インタビューをさせていただいた方々に納得していただける研究成果を出せるよう頑張りたいと感じました。
- ・優れた研究手法を使って一般化することに囚われている傾向があるように思う中で、いのちの営みを明らかにする研究の素晴らしさを感じ、学ばせていただきました。
- ・看護はもっと自由に研究方法論を広げるべきと思った。
- ・いのちと現場の声に耳を傾けることのヒントをいただけました。
- ・言葉の選定、概念化が流石だなと感心しました。時間が短く、もっとご講演を聞いていたかったです。スーパーバイズを受けながら論文文化したいな、ゼミを受けたいななど思いました。
- ・時間が短い。講師の先生も十分伝えきれなかったのではないかな。
- ・小田先生から直接講演していただく機会を得られて良かったです。
- ・エスノグラフィーの奥深さがよくわかった。
- ・方法論ではなくエッセンスについてご講演頂いたので良かった。参考文献も多くご紹介頂いたので、今後手にとってみたいと思います。
- ・方法論は方法論であって答えではないということがよくわかりました。いのちをどう捉えるか。看護や医療の根本のテーマに立ち返ることができました。
- ・割愛された部分も聞きたいと思いました。

- ・先生の語り口が心地よかった。具体例が多くわかりやすかった。
- ・エスノグラフィーの近年のスタンスが、看護が大切にしてきたケアに通じていることが分かった。
- ・もう少し本の内容、方法論も聞きたかったです。
- ・チラシから期待していた内容とは異なっていたが、話の内容は面白いものであった。最後の10分が良かった。
- ・「言葉は事の端」言葉が湧き出てくる、創造的になる。発見・分かることで楽しくなるが、「今、感じていること」です。がとても共感できた。紹介された書籍を読んでもみます。
- ・元々、文化人類学に大学で出会って以降大変興味のある分野で、小田先生の講演を看護の世界でようやく聴くことができる機会に恵まれたことを大変嬉しく感じて本日うかがいました。とても刺激される興味深いお話をありがとうございました。看護の質的研究でよくやるコード化・カテゴリー化をして概念を把握しようとする研究方法論を、文化人類学者（エスノグラフィー）はどうお考えになるのかな…など考えながら聴いていました。（言葉を分析するので）
- ・他分野の話は興味深かった。
- ・一度小田先生の話を知りたかったので、楽しく聞けました。
- ・ケア・いのちを論じること。エスノグラフィーの関連性というテーマだと出席する者としてのニーズがない。ケア・いのちを論じることがメインであればそれはそれで重要なので別の機会にやれば良いと思います。エスノグラフィー以前の話題が主だったので、例えると、研究してみても予備調査レベルだったと気づくような展開の講演だったと思います。
- ・方法論を聴けると思ったが違った。しかし、とても興味深い話でした。
- ・エスノグラフィーの方法についてのセミナーかと思っていましたが、違って良かったです。エスノグラフィーの考え方ということが学びました。良かったです。
- ・ナイチンゲールが述べていることと通じると感じた。
- ・興味深かったです。
- ・エスノグラフィー入門に載っている以外の例をたくさん紹介していただきありがとうございました。「エスノグラフィーには決まった方法（手順）はない」が理解できました。
- ・内容が理解しにくかった。文化人類学的研究を看護に取り入れることは大事であると思えたが難しいとも思えた。
- ・目からウロコがいっぱいでした。

2. 企画

1) 企画について

	人数	割合
大変満足	28	45%
満足	27	44%
やや満足	7	11%
不満足	0	0%
合計	62	100%



2) 意見、感想など

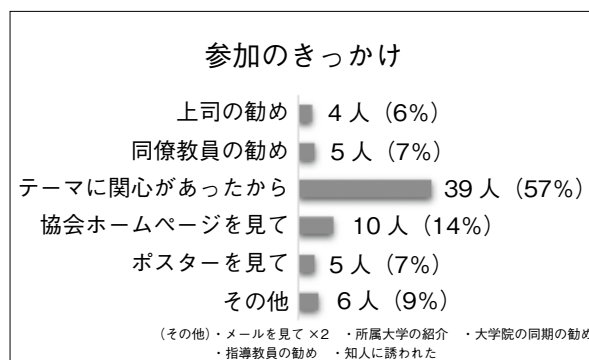
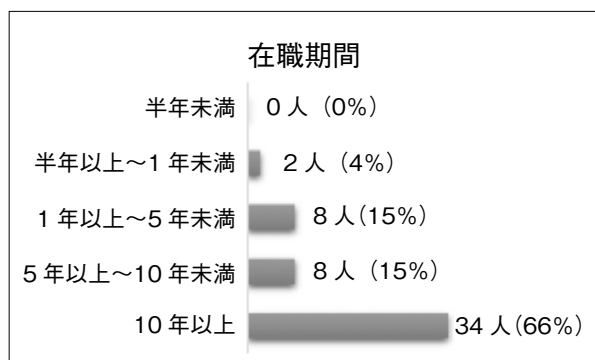
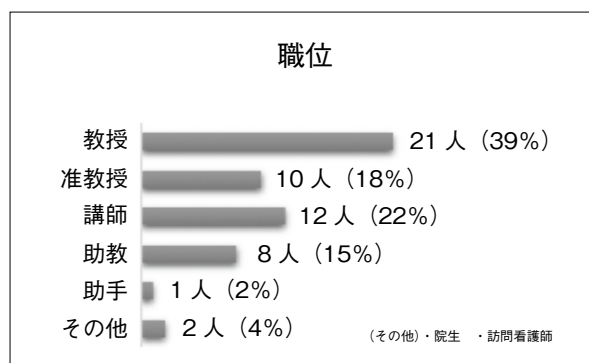
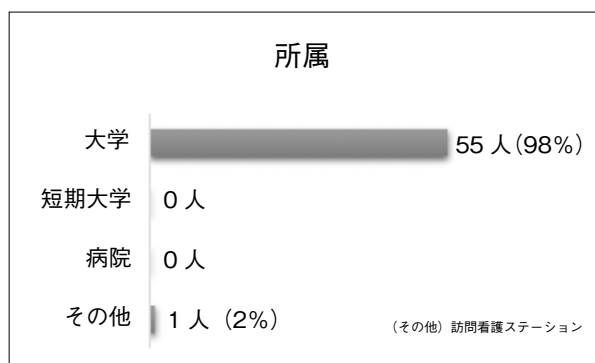
- ・なかなか難しさがある。
- ・JANPUでもそうですが、具体的で今私が困っていること、関わっている委員会にあるテーマを取り上げてくれています。活用させていただいています。
- ・質的研究をするうえで大変参考になる。看護のレベルを上げていくには、質的研究を進めていくことは大切である。また、言葉を大切にすることを学ぶことができた。
- ・エスノグラフィーの捉え方がわかった。
- ・ナイチンゲールの自然治癒力との関連性を感じた。
- ・看護研究に活用できる研究手法について学ぶ良い機会となった。
- ・質的研究の楽しさ、興味が湧いた。
- ・自分の知識が足りないため。
- ・学生にケア（援助・支援）を教授する上で活かしたい。（公衆衛生看護学はセルフケアを尊重するので）
- ・大学のFDレベルだった。「研究セミナー」としては不適切。依頼された内容をアナウンスしてもらえれば、出席しませんでした。「エスノグラフィーの実際」「方法論」というセミナーのタイトルは不適切だったと思います。
- ・自分の好奇心を満たしたが、仕事に活かせるのかは不明。
- ・今回のセミナーで方法論はテキストを読めばいいので、エッセンスや研究者の考え方を知ることができました。研究デザインを決める時に、リサーチクエスションと合う、デザインを選択する1つの手段となりました。
- ・学生教育で、学生が育つための環境を整えたいと改めて思った。
- ・大学院生の研究だけでなく学部生の研究にも活用できる研究方法論の一つだと思います。
- ・質的研究の基本姿勢を学んだ。

3. 今後、本協会「研究活動委員会」で希望するテーマ、開催方法、開催時期、場所など

- ・大阪はアクセスが良い。
- ・東京だけでなく西日本で開催頂いて参加がしやすくなりました。
- ・文脈理解について

- ・研究方法論に関するセミナー、研究が可能になる環境作りのセミナー（大学運営ばかりで、研究活動ができないため）
- ・移動距離から午後の開始は嬉しいです。
- ・JANPUが行っている「論文作成ガイドライン」（研究倫理を含む）への協働は行うのか示してほしい。看護全体で看護研究のあり方について協議することが必要。
- ・実習指導における倫理的配慮
- ・関西での開催が多いと幸いです。
- ・シリーズで、研究方法のセミナーを希望します。関西でしていただけると助かります。
- ・本日のような他領域の研究者の講演をうかがいたいです。

4. 参加者について



3. 国際交流委員会

1. 趣旨

- ①看護における教育、学術及び文化の国際交流を通して、将来国際的に関連機関との連携協力及び援助に繋がるための方策の調査研究
- ②看護界の動静と看護学教育の国際交流の現状と将来についての講演会等の実施
- ③上記①、②に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 小山 真理子（日本赤十字広島看護大学）
- 堀内 成子（聖路加国際大学）
- （委員）
- 荒川 満枝（鳥取看護大学）
- 長松 康子（聖路加国際大学）

3. 活動報告

1）国際交流教育に関する研修会の企画・運営

- ・「看護系大学における国際交流教育の成功に向けて」の企画を行い、プログラム作成とともに講師依頼、当日の運営計画、アンケート作成等を行った。会議はすべて web 会議とした。
- ・広報のために上記の研修会のチラシを作成し、メールで会員校に送信し、周知メールを 2 回送信した。

（研修会のテーマ・内容）

(1) テーマ：「看護系大学における国際交流教育の成功に向けて」

(2) 日 時：2019 年 10 月 6 日（日）13：00～16：00

(3) 会 場：東京ガーデンパレス 平安の間

(4) 内容および講師

「国際事業活動の危機管理の実際」 廣橋 雅子 先生（佐久大学信州短期大学部）

「国際交流事業の成果指標」 麻原 きよみ 先生（聖路加国際大学）

「留学生への日本語教育などの実際」 森山 ますみ 先生（国際医療福祉大学）

質疑応答

(5) 参加者：49 名

(6) 動画配信期間：2019 年 12 月 4 日～2020 年 3 月 4 日 視聴数：325 件

(7) 評価：3 大学からの異なる取組みについての報告はどれもユニークで、参加者の興味と高い評価を得た。詳細はアンケート結果参照。

2）英文ホームページの作成：本協会の存在を国際的に広報することを目的に、日本語版のホームページの主要な箇所を英語用に翻訳し、広報委員会を通して英文ホームページを作成した。

4. 今後の課題

グローバル化の加速する社会において活躍できる人材の育成の重要性が増している。社会のニーズに対応する看護学教育のあり方およびカリキュラムの体系化について議論を進めるとともに、大学の全教職員がグローバル化に取り組むことの発想の転換が求められている。大学の教職員の意識の変革を行う方策を見出すための議論を進めていく。また、2019 年度末に生じた COVID-19 パンデミックにより、国際交流教育を中止した大学も少なくない中で、国際交流教育についても多くの課題が残された。これらの課題解決に向けた大学間の情報の共有等の取り組みが必要である。

一般社団法人日本私立看護系大学協会

「看護系大学における国際交流教育の成功に向けて」アンケート結果

参加者数：49人 参加校数：32校

アンケート回答者数：46人（回答率：93.9%）

日時：2019年10月6日（日）13:00～16:00

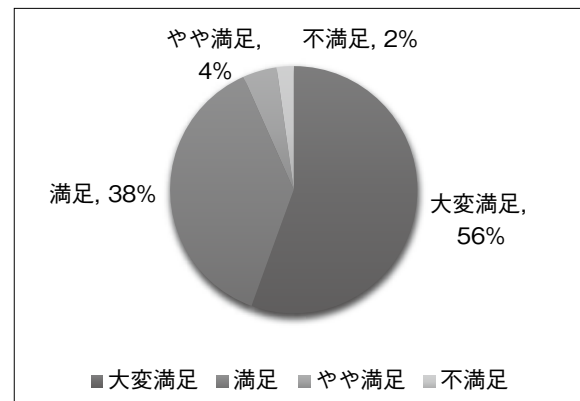
場所：東京ガーデンパレス 平安の間

1. 講演会

講演1「国際事業活動の危機管理の実際」 講師：廣橋雅子 先生（佐久大学信州短期大学部）

1) 講演の内容について

	人数	割合
大変満足	25人	56%
満足	17人	38%
やや満足	2人	4%
不満足	1人	2%
合計	45人	100%



2) 意見、感想など

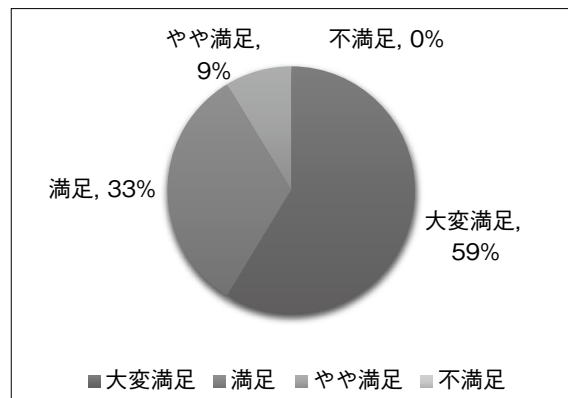
- ・個別に詳細について伺いたい。
- ・具体的な内容でわかりやすかった。危機管理体制づくりの課題が明確になった。
- ・具体的でわかりやすかった。現在の本学体制の見直しと可視化を必要だと気付いた。
- ・これからの教育内容に盛り込んでいかなければいけないことなのでカリキュラム編成時に取り入れる際に役立つと思われました。
- ・リスク管理についての対応がわかりやすかった。
- ・具体例がありわかりやすかったです。
- ・具体的なことがわかった。
- ・国際交流事業の危機管理について、見直しの視点をいただきました。
- ・看護でない教員を雇用できるという前提が入ってしまう。
- ・本学でも短期研修生の受け入れ、派遣をしているので大変参考になりました。文化の違いを考慮した支援体制を受け入れ、派遣の両方で整えたいと思います。
- ・海外からの学生受け入れの参考になった。具体例がよかった。
- ・国際事業を実際に始めたばかりで、非常に参考になった。
- ・国際化していない看護大学に対する国際化方法かと思いましたが違った。
- ・現在、他大学がどのような取り組みをされているのか理解することができました。管理の重要性についてを主に学ぶことが出来ました。
- ・具体的で準備の心構えができた。
- ・我々の「国際人材」についての使命を改めて考えさせられた。

- ・具体的な実践報告で必要な情報をピックアップできた。
- ・看護教員以外の教員の話が聞けて良かった。

講演2「国際交流事業の成果指標」 講師：麻原きよみ 先生（聖路加国際大学）

1) 講演の内容について

	人数	割合
大変満足	27 人	59%
満足	15 人	33%
やや満足	4 人	9%
不満足	0 人	0%
合計	46 人	100%



2) 意見、感想など

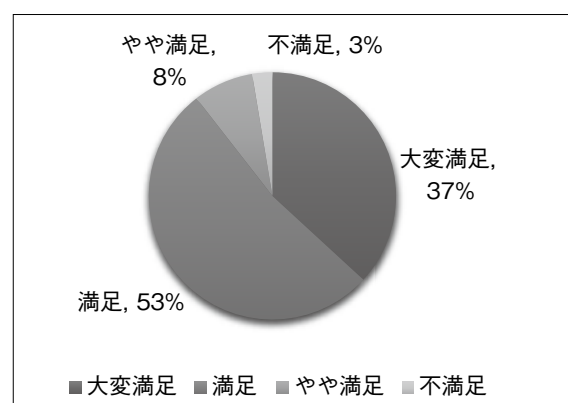
- ・評価指標について、講評されることがとても楽しみです。今後の研修プログラムの作成に役立てたい。
- ・成果指標を早く公表していただきたい。私どもの大学でも評価として活用させていただきたい。
- ・評価指導については、現在活用している学修目標と同様の項目が出ていたのに加え、看護学生人間としての成長に関する評価項目が出ていたのが興味深かった。
- ・国際交流プログラムの評価の視点が理解できた。各プログラムの特徴や目的が多様であり、評価することが大切だと思った。
- ・組織全体で取り組む体制と、留学生によって得られる能力の可視化と共有が活性化につながると理解できた。
- ・関心のない学生が一定数いるとのこと、さすが聖路加国際大学と思いました。本学では「関心のある学生が一定数いる」レベルです。そこでどうやって始めていくかが問題です。スタートが違いう中でどう本日の内容を活かすか難しいです。
- ・地球人としての役割まで考えられる学生に育てるには必要な企画であると思いました。
- ・具体的な量的研究方法を聞いて興味深かった。
- ・最新の研究についても拝聴でき大変参考になりました。
- ・本学では小規模な交流プログラムにとどまっていたので、とても参考になりました。素晴らしい取り組みに圧倒されました。
- ・何をもって国際交流を評価するのかは課題でした。このたび麻原先生のお話をお聞きし、大変心強く思いました。
- ・聖路加国際大学の取り組み、素晴らしかったです。
- ・出せないという資料について関心があったので、これについて早く今後公表されることを望んでいます。
- ・国際化していない看護大学に対する国際化方法かと思い参加したが違った。
- ・留学事業の意味と成果について理解できました。

- ・意義、学生の成長に役立つことが理解できた。
- ・多くの国際交流の学生たちの実情がうかがえて良かった。
- ・是非指標が参考にできる日を楽しみにしています。
- ・国際大学ならではの実践だと思いました。先進的過ぎてどこから始めればいいのか。
- ・教員の語学力の強化・維持のためにどのようにされているのかも知りたかったです。
- ・成果指標の作成過程についてをもう少し詳細にお聞きしたかった。全体像は大変参考になりました。
- ・具体的な研修内容・費用・期間と学生の学び、成果指標、課題が聞けて良かった。

講演3「留学生への日本語教育などの実際」 講師：森山ますみ 先生（国際医療福祉大学）

1) 講演の内容について

	人数	割合
大変満足	14 人	37%
満足	20 人	53%
やや満足	3 人	8%
不満足	1 人	3%
合計	38 人	100%



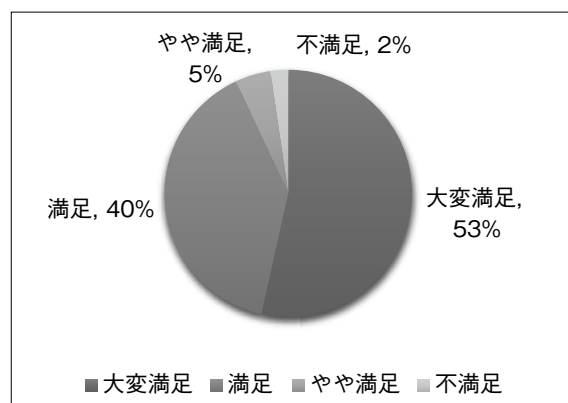
2) 意見、感想など

- ・ご講演の内容まで提示できないとしても概要があるとありがたい。
- ・入学前の日本語サポートはどのようにしているのか気になった。
- ・留学生がいないため、イメージしにくかったが、内容を具体的に説明され理解しやすかった。
- ・入試体制はあるが、学生は未だにいない。支援の必要な学生対応は共通している。教員の手厚い支援が必須と感じた。共に教育を受けることで両学生に利益があると思う。
- ・当短大でもミャンマーの学生を受け入れ、今後の問題が予測される。参考にしていきたいと思います。
- ・大学内での具体的フォローの仕方や対応について聞けてわかりやすかった。
- ・国際化というのはこういうことかと衝撃的な内容でした。近未来（本学にとってはですが）の姿として参考にさせていただきます。留学生のためのライティング教材は（EPA）外国人看護師にも役立ちそうです。
- ・本学では、留学生の受け入れはしていませんが、やがて少子化対策の一環として検討する時期が来るかと思います。そのための心の準備が出来ました。
- ・参考になった。
- ・留学生が増加してくるであろう今、どのような支援が必要となってくるのか理解できました。
- ・小規模大学なので現実的な課題が多いと感じた。
- ・留学生への理解は、教員職員だけではなく、学生同士で理解し合うことが大変有効であると感じました。

2. 企画

1) 企画について

	人数	割合
大変満足	23 人	53%
満足	17 人	40%
やや満足	2 人	5%
不満足	1 人	2%
合計	43 人	100%



2) 意見、感想など

- ・ディプロマポリシーとプログラムの体系化を意識して教育を進める重要性を再認識した。
- ・大変参考になりました。
- ・国際交流プログラムを充実させるための課題が明確になったため、今後一つずつ整備していきたいと思える研修会になりました。
- ・国際交流における課題は大学に共通しており、このような意見交換ができる場が欲しい。今回、とても参考になった。
- ・どう始めるかに困っているもので、本日の内容はあまりに先のことのよう思えました。
- ・研究結果の発表があればと思う。
- ・他の大学がどのように国際交流をしているのか学べてとても役立った。
- ・グローバル、国際という言葉の違いについて考えていきたい。様々な経験をお持ちの先生方が沢山いらして、とてもよかったと思います。
- ・とても興味深かったです。自組織の取り組みしか見てこなかったもので刺激をいただきました。
- ・いろいろと他にやることが多い中で後回しにされがちな国際交流ですが体験する学生は確実に学べるのも事実です。今回他の大学の状況をお聞きし、本学でも少しずつ前進できるように体制を整え、進めておきたいと思います。
- ・大学によって組織や財源が違うので、状況は違うが、共通の課題もあり、わかってよかった。
- ・私立看護系大学でも条件に大きな格差がありますが、私の大学でも何かできることがあるのではと考えさせられました。
- ・現在、自身は国際交流や在日留学生等への関わりはありませんが、今後関わっていく機会を持ちたいと感じたと共に、まずは学びを深めたいと思いました。
- ・プログラムへの学生参加（合同企画）
- ・これから本学で国際交流を始める段階です。どの講演も大変ためになりました。
- ・知りたいと思うことはたくさんあっても、相談したり尋ねたりする人が身近におらず、これまでの経験も自信がなく心細かったのですが、他大学の皆様の状況等を聞かせていただくことだけでも大変勉強になりました。
- ・他大学の実情をうかがえたことが良かった。
- ・様々な事例が聞けてとても良かったです。

- ・プログラムへ実施にあたってのネックになるのは人材（事務局）の確保と、教員の人材と時間の確保、財源（奨学金、教員の出張費）の確保かと思いますのでその話が聞きたかったです。また年間カリキュラムの中で、他学部と開催するにあたりの時期、8月3月しかないのでしょうか。
- ・協定を結ぶまでにまだまだ長い道のりがありますので、これからです。少しでも学生のニーズにあったものを慎重に準備していきたいと思います。

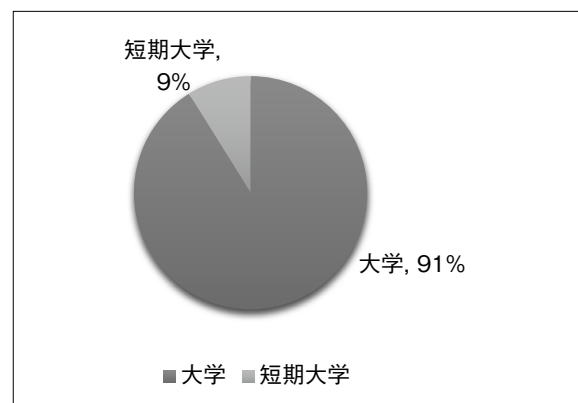
3. 今後、本協会「国際交流委員会」で希望するテーマ、開催方法、開催時期、場所など

- ・毎年、国際交流の研修会を企画していただきたい。研修会のテーマについてはホームページ等で意見を募ってみてはどうでしょうか。
- ・来年度のプログラム、予算計上等を考えると、もう少し早い時期に開催して頂けると良いと思います。
- ・留学生の対応はどうしたらいいか。
- ・具体例と対応を中心とした内容での開催。
- ・学生の国際交流プログラムを作成するプロセス、財源の獲得や MOU 締結の方法など、具体的な研修があれば参加したい。
- ・国際間での共同研究についても考えていけたらと思います。
- ・病院の方々の生の声を集めた講演会を夏頃に開いてほしい。
- ・一般的な地方の私立大学で力を入れすぎずに地道に国際看護の教員をしていくためのテーマ内容（一部の大学だけができたり、すでに体制が整っているところではなく。）
- ・海外研究者の共同研究についての進め方について
- ・留学生を受け入れた後のサポート体制など
- ・東京で開催、できれば平日が良い。
- ・今回の国際交流教育の第2弾、第3弾をやってほしい。今回、発表して下さった以外の他大学の事例もほしい。
- ・海外留学や留学生受け入れだけでなく、日本においての在留外国人等との交流に関する事例を知りたいです。
- ・今回と同じく、危機管理と評価に関するテーマを希望します。
- ・国際センターや支援センター所属の事務の方々の立場からの支援や体制の具体的な事例をうかがいたい。
- ・各研修のさらなる具体的実践事例が聞けると嬉しいです。受入、海外へなど。
- ・事務方との協働体制構築の工夫。

4. 参加者について

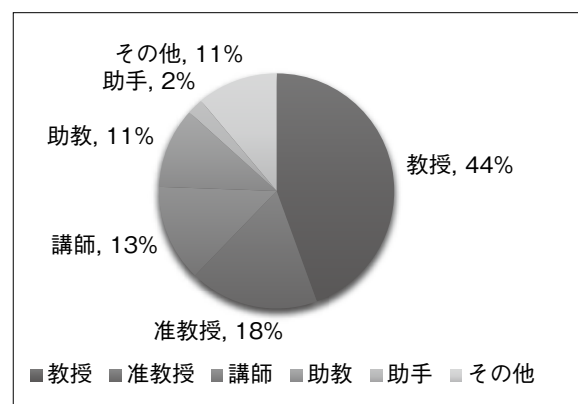
①所属

	人数	割合
大学	41 人	91%
短期大学	4 人	9%
合計	45 人	100%



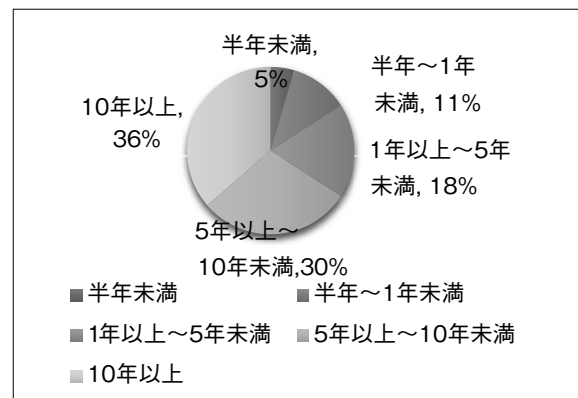
②職位

	人数	割合
教授	20 人	44%
准教授	8 人	18%
講師	6 人	13%
助教	5 人	11%
助手	1 人	2%
その他	5 人	11%
合計	45 人	100%



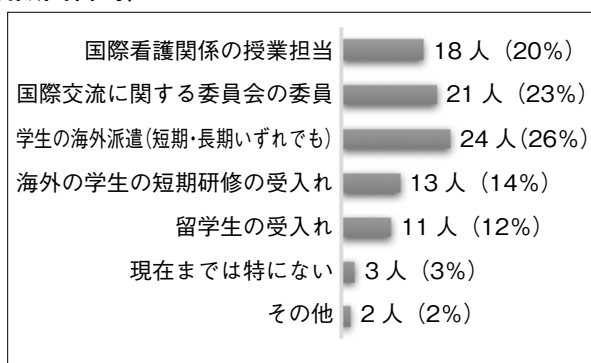
③在職期間

	人数	割合
半年未満	2 人	5%
半年～1年未満	5 人	11%
1年以上～5年未満	8 人	18%
5年以上～10年未満	13 人	30%
10年以上	16 人	36%
合計	44 人	100%



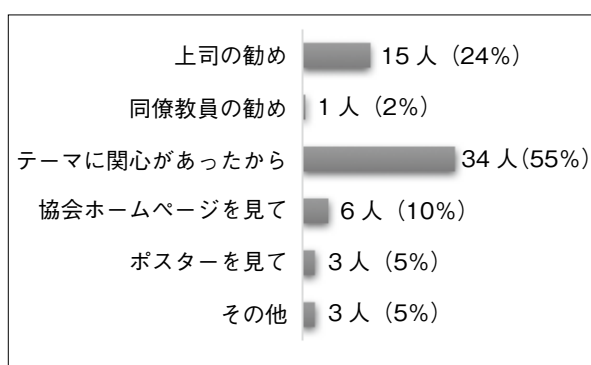
④国際看護や国際交流に関する職務について（複数回答可）

	人数	割合
国際看護関係の授業担当	18 人	20%
国際交流に関する委員会の委員	21 人	23%
学生の海外派遣（短期・長期いずれでも）	24 人	26%
海外の学生の短期研修の受入れ	13 人	14%
留学生の受入れ	11 人	12%
現在までは特にな	3 人	3%
その他	2 人	2%
合計	92 人	100%



⑤参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	15 人	24%
同僚教員の勧め	1 人	2%
テーマに関心があったから	34 人	55%
協会ホームページを見て	6 人	10%
ポスターを見て	3 人	5%
その他	3 人	5%
合計	62 人	100%



4. 大学運営・経営委員会

1. 趣旨

- ①私立看護系大学の振興に必要な国、地方公共団体又は民間からの補助金、寄付金、その他の支援が可能になるような実態調査・分析
- ②大学運営・経営の向上に繋がる事業を展開するための方策の調査研究
- ③上記に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

久保 かほる（埼玉医科大学短期大学）

長澤 正志（淑徳大学）

○春山 早苗（自治医科大学）

道重 文子（大阪医科大学）

3. 活動報告

I. 研修会「私立大学等改革総合支援事業への取り組み―地域社会への貢献―」

日時：2019年10月28日（月）13：30～16：30

場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）6階・霧島

参加申込者：67名（教員：57名 事務系：10名） 当日参加者：53名、参加校：33校

動画配信期間：2020年1月6日～2020年4月6日 視聴数：342件

開催趣旨：看護系大学の急増に伴い、私立看護系大学には質の高い看護学の教育や研究を行っていくための安定かつ円滑な大学運営や経営がより一層、求められている。私立大学等改革総合支援事業は、社会の変化を見据え、自らの大学の特色・強みの明確化に向けた改革に全学的・組織的に取り組む大学等を支援するものである。本研修会では、この事業への先駆的な取り組みの実際を知り、大学経営も視野に入れた創造的かつ発展的な大学運営について考え、意見交換を行う機会とした。

プログラム

13：00～13：35 会長挨拶

日本私立看護系大学協会会長 大島 弓子

13：35～14：05 講演1「大学法人として推進する先進的地域包括ケアモデルについて」

藤田医科大学地域包括ケア中核センター地域連携教育推進センター・保健衛生学部リハビリテーション学科基礎理学療法学 都築 晃 氏

14：05～14：50 講演2「先進的地域包括ケアモデルの活動内容と課題（看護活動について）」

藤田医科大学地域包括ケア中核センター・保健衛生学部看護学科在宅看護領域 川上 友美 氏

14：50～15：00 休憩

15：00～16：00 講演3「先進的地域包括ケアモデルの活動内容と課題（行政・民間連携について）」

都築 晃 氏

16:00～16:25 質疑応答

16:25～16:30 閉会挨拶

日本私立看護系大学協会大学運営・経営委員会委員長 春山 早苗

<講演 1>

都築氏は、私立大学経営費補助の特別補助にあたる私立大学等改革総合支援事業とその動向について紹介された。私立大学経営費補助は一般補助も特別補助も、近年、「大学が地域における知の拠点であれ」というメッセージが発せられているとのことであった。また、藤田医科大学が、これからの医療人は医療も介護も福祉も理解しなければならないとの考えから2013年に立ち上げた、大学に所属する地域包括ケア中核センターについて紹介された。この目的は、地域包括ケアの実践、教育、地域貢献であった。さらに、補助金の獲得を目指し、自治体との連携及び大学間連携を目的とした地域連携教育推進センターを立ち上げ、5大学でプラットフォームを形成し、地域を支える人材＝地域共生社会を支える人材育成に取り組んでいた。

<講演 2>

川上氏は、藤田医科大学地域包括ケア中核センターの豊明市における看護活動として、訪問看護ステーションとふじたまちかど保健室を紹介された。訪問看護ステーションは、看護師（常勤13名、兼任教員8名）、PT（常勤4名、兼任教員2名）、OT（常勤1名、兼任教員1名）で運営しており、教育の場として学生の実習も受入れている。まちかど保健室は、大学から約1kmの豊明団地の商店街に、豊明市とUR都市機構と提携して2015年に開設した。地域の人々との交流イベント、健康教育、健康・医療・介護・子育て相談を行っている。豊明団地には60名の学生が住んでおり、防災班、ウォークラリー班、寺子屋班等の10班に分かれて活動をしている。活動における課題は、地域住民のニーズへの対応、自治会や関係各所との連携、豊明団地居住学生の地域貢献活動の運営とのことであった。

<講演 3>

都築氏は、地域包括ケア中核センターの活動経過を紹介された。豊明市の医療・介護資源の状況及び人口推計からみた課題を踏まえた、関係者との調整や豊明市との協働、地域の職能団体組織化支援、住民ニーズや医療介護連携に関する調査の実施・分析に基づく必要なサービスの明確化や学生・教職員が豊明団地内に居住することによるコミュニティの活性化とそれが高齢者の抱える現実の生活課題を学生が学ぶ機会となっていること等について述べられた。「藤田・豊明市モデル」が国のモデルとなり全国自治体へ発信され、また、地域包括ケアの推進に向けた市町村支援プログラムも開発されていた。

豊明市との連携により、多様な資源の活用による参加・外出の場の重層的な提供を市の総合事業として行い、普通の暮らしに戻す支援を皆で考え、専門職に価値観の変化を起こす場として、多職種合同カンファレンスを毎月実施しているとのことであった。

最後に、地域の民間企業の力を知り、民間企業による高齢者向けサービスの創出を自治体が支援していくという、自治体と協力して行う民間連携について述べられた。

＜質問＞

このような事業に取り組む際に、全学的といっても関わる教員に限られる傾向がある、教員の連携・協力体制を構築していくためにはどうしたらよいか、という質問があった。

川上氏は、学科長を始めとした教員に実際の活動の紹介や報告、困りごと等を伝えていくことが重要であると述べられた。都築氏は、専門性が異なることなどを理由に諦めている部分もあるが、学長・学部長・学科長の理解が得られていることが重要であり、大学経営的メリットを強調して伝えていると述べられた。

＜まとめ＞

各大学はどういう看護人材を育てたいのかを考え、それを踏まえた私立大学等改革総合支援事業への取り組みは教育の場づくりとなる。また、どの大学も同じようにはできないが、大学や大学が所在する地域の特色や強みを活かし、地域に貢献する取り組みを行うことが、大学の価値を高め、ひいては大学運営・経営の向上につながると考えられる。

Ⅱ. 「2018 年度看護系大学に関する実態調査」について

「2018 年度看護系大学に関する実態調査」を日本看護系大学協議会データベース委員会と共同で実施した。

【第 1 回合同会議】

日時：2019 年 8 月 9 日（金）18：15～20：00

出席者：日本看護系大学協議会（荒木田、石田、川口、佐藤、磯野、小檜山、事務局：潮、川口）

日本私立看護系大学協会（道重、春山、事務局：福島）

協議内容：1) 設問・回答欄の見直し

2) 集計業務の委託業者

3) スケジュール

【第 2 回合同会議】

日時：2020 年 1 月 28 日（火）18：00～20：45

出席者：日本看護系大学協議会（荒木田、石田、川口、佐藤、磯野、小檜山、事務局：潮、川口）

日本私立看護系大学協会（春山、事務局：山本）

株式会社アクロス

協議内容：1) 回収状況 276 校（回収率 97.5%）

2) 集計結果の確認

3) 分析コメントの担当

4) 今後のスケジュール

4. 今後の課題

1) 看護系大学に関する実態調査結果の活用について

2018 年度から日本看護系大学協議会と合同調査になった。調査結果から、学費の格差や私立大学では独自の奨学金制度が設けられていることなどが明らかになった。今後の課題は、大学経営の観点から、本調査の活用状況の把握と共有を行うこと、経済的学修環境の整備について提言

する方策を考えることである。

2) 研修計画

大学運営・経営強化のために年1回研修会を企画している。今後も、教育の質向上および補助金獲得等の大学運営・経営に資する知見が得られる企画を立案していく。

一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学運営・経営委員会
「私立大学等改革総合支援事業への取り組み―地域社会への貢献―」アンケート結果

参加者数：53人 参加校数：33校

アンケート回答者数：48人（回答率：90.6%）

日時：2019年10月28日（月）13:30～16:30

場所：アルカディア市ヶ谷 霧島の間

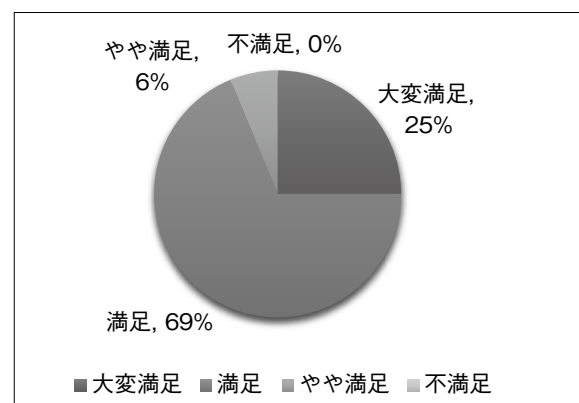
1. 講演会

講演1「大学法人として推進する先進的地域包括ケアモデルについて」

講師：金田嘉清 先生（藤田医科大学）

1) 講演の内容について

	人数	割合
大変満足	12人	25%
満足	33人	69%
やや満足	3人	6%
不満足	0人	0%
合計	48人	100%



2) 意見、感想など

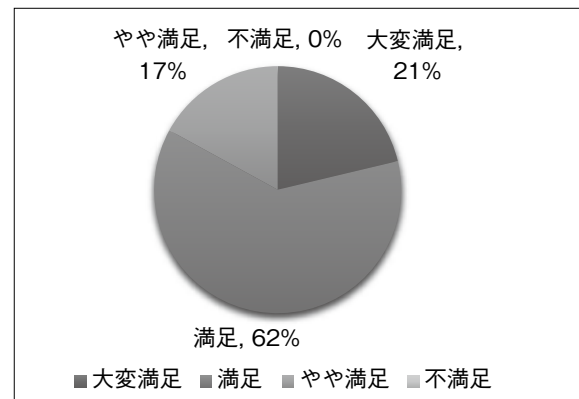
- ・ 藤田医科大学の運営の概要が良く分かりました。
- ・ 私学の改革支援の事業補助の申請・選定について知りました。私立大学の運営のことについて調べていきたいと思います。
- ・ 総合支援事業の概略など、資料が分かりやすかった。
- ・ 各活動における学生のモチベーションの維持向上の秘訣を知りたいと感じました。

講演 2「先進的地域包括ケアモデルの活動内容と課題（看護活動について）」

講師：川上友美 先生（藤田医科大学）

1) 講演の内容について

	人数	割合
大変満足	10 人	21%
満足	29 人	62%
やや満足	8 人	17%
不満足	0 人	0%
合計	47 人	100%



2) 意見、感想など

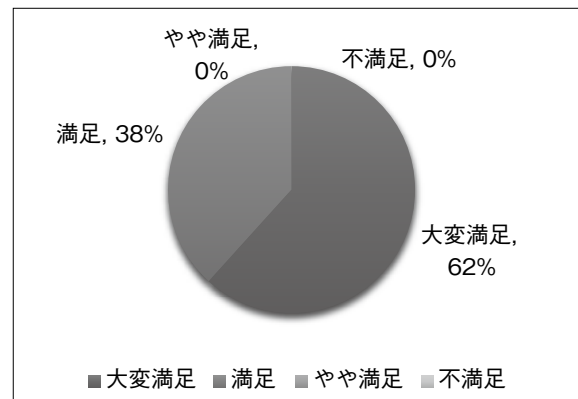
- ・教員と看護師（の立場の変換）が混乱しないか。
- ・学生が地域と関わる際に教員の支援を具体的に教えていただきたい。また、その際の課題は何か。
- ・実際の活動は良くわかりましたが、教員の学生への関わりの実際や自治会との連携の実際も知りたいです。
- ・具体的な活動の実際を聞くことが出来ました。教員としての課題や、工夫など教えていただけたら良かったです。
- ・学生と一緒に地元の住民とどのような活動ができるのか、自大学の教育への取り組みも含めて考えていきたいと思います。
- ・活動内容の紹介は参考になりました。実際に行う上での課題があればもっと取り入れる上でよかったのではないかと思います。
- ・教員が関わることについて実際の活動は良くわかりましたが、学生への教育のつながりがわかりずかったです。そういう点を聞きたかったです。
- ・大学で行うことの意義が分かりにくかった。実践は重要だとは分かるのですが、教育・研究にどのような影響を及ぼしたのか知れたかった。
- ・教員との連携が良く分からない。
- ・具体的にどのような活動を行っているのか分かりやすかった。
- ・具体的には分かるが、そこまでの組織的な背景を知りたかった。
- ・少し分かりにくかったです。
- ・パワポ通りの資料が欲しかったです。
- ・現状報告だけに終わってしまい、あまり参考にならなかった。

講演3「先進的地域包括ケアモデルの活動内容と課題（行政・民間連携について）」

講師：都築 晃 先生（藤田医科大学）

1) 講演の内容について

	人数	割合
大変満足	29 人	62%
満足	18 人	38%
やや満足	0 人	0%
不満足	0 人	0%
合計	47 人	100%



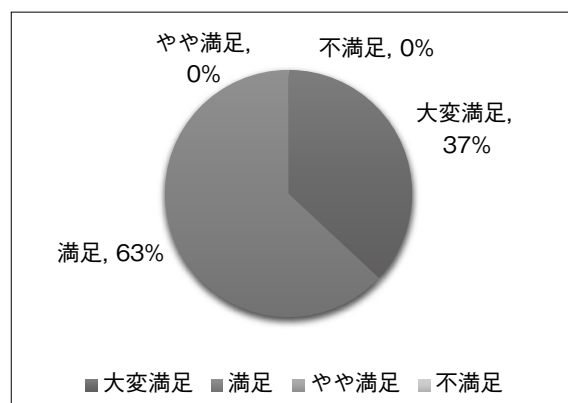
2) 意見、感想など

- ・理念を持つこと、ニーズを把握することの大切さを実感いたしました。
- ・対象は異なりますが、今後地域での仕組み作りをしたいと考えていましたのでタイムリーで、参考になる内容でした。もう少し時間をかけて詳しくうかがいたかったと思います。
- ・以前お話を聞く機会がありました。大変興味があります。資料を参考にさせていただきます。
- ・具体的な活動内容と大学の狙い・豊明市の現状とをリンクして説明くださり、非常に分かりやすかったです。是非研修に行きたいです。
- ・民間企業との連携が大変良かったです。勉強になりました。
- ・理解しやすい話でした。
- ・すごくやっているという感想を持った。小さい大学では困難かなと感じた。
- ・住んでいるまち（大学）をどんなまちにしたいのか。
- ・地域包括に関わる者としてはとても面白く、分かりやすかった。現状の日々の業務をどう調整し、カリキュラムなどにどう反映させるか、考えてしまいました。
- ・大学の地域貢献の在り方について、考えさせられました。地域住民と具体的に連携する活動が求められていることを再認識しました。
- ・組織の中での事業が良く分かった。
- ・実際に自治体や現場と協力して補助金を申請することは大変だと思った。
- ・大学―地域の連携の具体的方法について参考になった。

2. 企画

1) 企画について

	人数	割合
大変満足	17 人	37%
満足	29 人	63%
やや満足	0 人	0%
不満足	0 人	0%
合計	46 人	100%



2) 意見、感想など

- ・素晴らしい取り組みを紹介していただき、とても勉強になりました。もっとじっくり聴きたい豊かな内容でした。講師の先生方のエネルギーに感じ入りました。
- ・事例に基づいた研修で学びのあるものでした。(財源等の話も含めて)。
- ・地域で抱えている課題は何か。大学が何か出来るか。地域に関心を持つことの必要性を学んだ。教育のねらい、価値観を大学全体で共有し、運営することの大切さを学んだ。トップダウンから大学の理念の共有、理解が得られる活動、人材活用も大切だと思いました。
- ・地域包括ケアに関する具体的な事例が聞けたことにより、よりイメージがわき大変参考になりました。
- ・課題も本学には多くあると感じた。
- ・参考になりました。
- ・4月より私学の教員になりましたので、今回のテーマはとても私にとって新しいものでした。地域の中に入っての大学の活動が定着しているのでとても素晴らしいと思います。
- ・大学として地域に信頼されることが大切と思う。
- ・改革総合支援事業としての実践事例を多数で紹介していただきありがとうございました。今少し他大学の連携時の問題か課題についてお話していただきたかったと思います。また、総合支援事業につなげていくための留意点や注意事項、配慮等についてもご教示いただきたかったと思います。
- ・たくさんのアイデアが聞けました。
- ・大学で実施することのメリットが分かりずらかった。
- ・大学病院を持たない一般大学で訪問看護ステーションを立ち上げるケースについての講演を聞きたい。
- ・各センター、特に「地域包括ケア中核センター」における初期投資及び運営費用（年間推移）を参考までに知りたいと感じました。
- ・具体的にこの事業や制度について詳しく知りたかった。

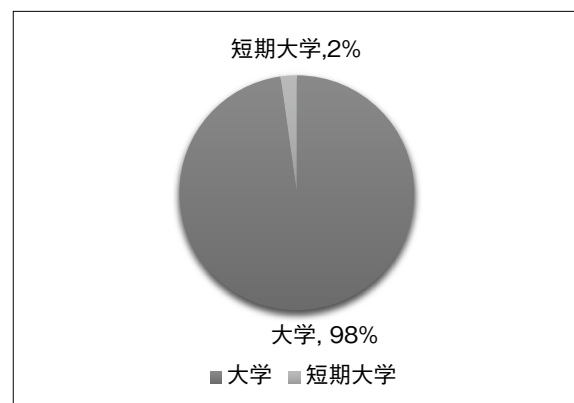
3. 今後、本協会「大学運営・経営委員会」で希望するテーマ、開催方法、開催時期、場所など

- ・経常費補助金（看護系大学）の獲得テクニックについて事務系職員向けのセミナー

4. 参加者について

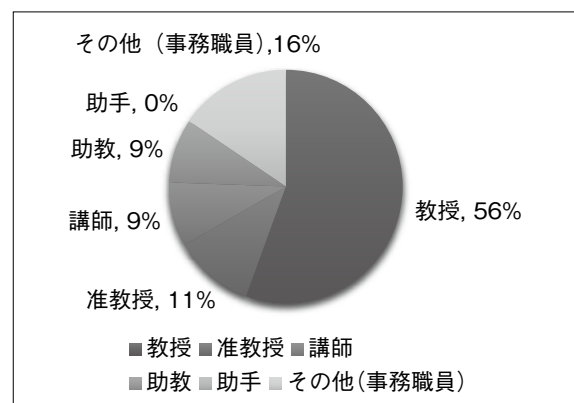
①所属

	人数	割合
大学	44 人	98%
短期大学	1 人	2%
合計	45 人	100%



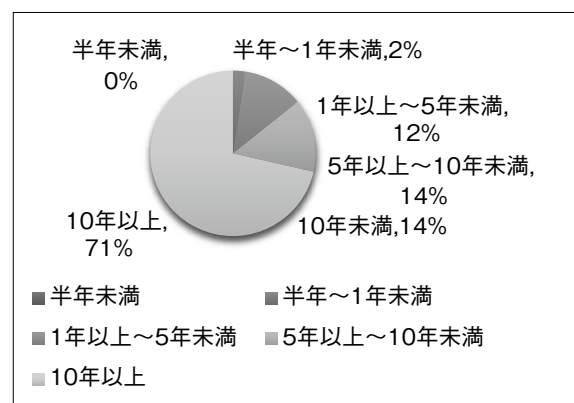
②職位

	人数	割合
教授	25 人	56%
准教授	5 人	11%
講師	4 人	9%
助教	4 人	9%
助手	0 人	0%
その他（事務職員）	7 人	16%
合計	45 人	100%



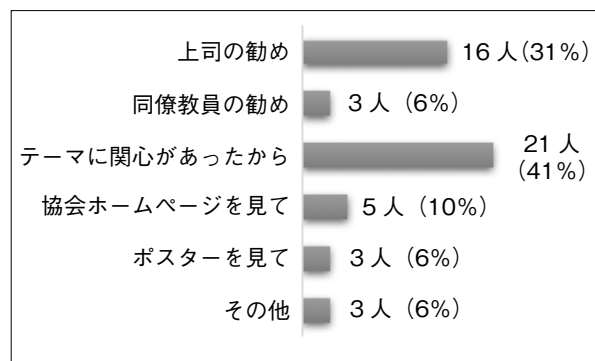
③在職期間

	人数	割合
半年未満	0 人	0%
半年～1年未満	1 人	2%
1年以上～5年未満	5 人	12%
5年以上～10年未満	6 人	14%
10年以上	30 人	71%
合計	42 人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	16 人	31%
同僚教員の勧め	3 人	6%
テーマに関心があったから	21 人	41%
協会ホームページを見て	5 人	10%
ポスターを見て	3 人	6%
その他	3 人	6%
合計	51 人	100%



その他：大学事務からのメール
訪問看護ステーションの立ち上げを検討しているため

5. 渉外委員会

1. 趣旨

- ① 本法人の発展のため外部の組織に働きかけ、看護教育並びに看護専門職としての充実・発展に必要な国の制度や法令、文教行政や予算、高大連携についての確かな情報収集と分析・整理
- ② 文部科学省、厚生労働省関係、日本学術会議をはじめ、日本看護系大学協議会、日本私立大学協会、日本私立学校振興・共済事業団、中央教育審議会、大学設置・学校法人審議会等諸機関の活動状況の把握をし、必要な提携・協力及び支援活動を企画・実施
- ③ 啓発活動のためのセミナーの実施
- ④ 上記①～③に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 河口 てる子（日本赤十字北海道看護大学）
小松 浩子（慶應義塾大学）

3. 活動報告

「国家試験問題に関する調査」から「関係諸機関との連携」へ

渉外委員会は、2016 年度以前には主として「国家試験問題に関する公募状況調査」を行ってきたが、日本私立看護系大学協会の組織改革の必要性が認識され、渉外委員会も 2017 年度からは、本来の活動である関係諸機関との連携、情報交換等を主として行うことになった。活動内容は、① 本法人の発展のため外部の組織に働きかけ、看護教育並びに看護専門職としての充実・発展に必要な国の制度や法令、文教行政や予算、高大連携についての確かな情報収集と分析・整理を行う。そのために② 文部科学省、厚生労働省関係、日本学術会議をはじめ、日本私立大学協会、日本私立学校振興・共済事業団、中央教育審議会、大学設置・学校法人審議会等諸機関の活動状況の把握をし、必要な提携・協力および支援活動を企画・実施することとなり、必要時には③ 啓発活動のためのセミナーを実施することも目的の 1 つとなった。

日本私立大学協会、日本私立学校振興・共済事業団、日本私立短期大学協会、日本私立大学連盟とは、特に事務部門間で頻繁な交流をはかって情報交換しているが、関係諸機関の理事長・事務局長が交代したときは、渉外委員会として訪問している。訪問時には、重要事項、最近の動向をお聞きしながら私立大学が抱える問題等について意見交換し、今後の活動協力を依頼し、相互の理解を深めている。

2019 年度は、日本私立大学協会事務局および日本私立学校振興・共済事業団を訪問し、私学助成の補助金について、小規模校が多い医療系大学の中の看護学部（看護学科含む）や看護系単科大学などの補助金採択に関して、小規模校が不利になっていることを協議した。

- ・ 2019 年 10 月 15 日（火） 日本私立大学協会事務局往訪
- ・ 2019 年 11 月 18 日（月） 日本私立学校振興・共済事業団往訪

専門職大学に関して

2019年4月1日施行された専門職大学制度は、「学校教育法の一部を改正する法律」によるものであり、その背景は、我が国の経済社会状況や高等教育をめぐる状況から、新しいタイプの人材育成の強化が急務とされ、今後の成長分野を見据え、新たに養成すべき専門職業人材は、理論に裏付けられた高度な実践力＋変化に対応して、新たなモノやサービスを創り出す豊かな創造力を持ち合わせた人材を「専門職大学・専門職短期大学」として大学系への位置づけをしている。専門職大学設置基準は①入学者の多様性の確保、②教育課程の編成方針、③教育課程連携協議会、④授業科目(1)、⑤授業科目(2)、⑥授業を行う学生数、⑦卒業の要件、⑧臨地実習・連携実務演習等、⑨専任教員、⑩実務家教員、⑪研究能力を併せ有する実務家教員、⑫みなし教員、⑬教員の資格、⑭校地の面積、⑮校舎の面積の他に、学位規則の一部改正がある。また、既存の大学や短大への新機関併設も提言されている。

2019年4月にも最初の専門職大学が発足かと思われたが、複数校の設置申請はあったものの2019年4月の看護系専門職大学の開設はなかった。引き続き、2020年4月開設に向けて再申請されたが、看護系の専門職大学は認可されず、2020年4月の新設校はなかった。この専門職大学に関しては、引き続き情報収集し、広報を通して会員校に情報提供することを予定している。

看護系諸団体との情報交換、連携、関係強化

日本看護系大学協議会とは、大学情報データベース調査を共通化することから合同委員会活動などを通じて深いつながりを持つことになった。2017年度に合同委員会によりデータベース調査を実施し、2018年度には調査結果を共有し、分析している。また、日本看護系大学協議会のAPNブランドデザイン委員会では、日本私立看護系大学協会から委員を出すことになり、河口てる子委員が参画し、プライマリーケアの高度実践看護師の認定等を協議している。

2018年11月に日本看護学教育評価機構が発足し、その運営に関して本協会の協力が求められ、協会からは大島弓子会長が評議員として参画している。

【Nursing Now】キャンペーン

2020年はナイチンゲール生誕200年で、ナイチンゲールが目指した専門職としての看護、看護職の地位向上、健康と福祉を目的に活動を世界的に展開するキャンペーン【Nursing Now】が実施されている。日本においては、日本看護協会が主体となって30もの看護の団体（日本看護連盟、日本助産師会、全国保健師会長会、日本看護系大学協議会、日本私立看護系大学協会、日本看護学校協議会、日本赤十字社医療事業推進本部看護部、国立大学病院看護部長会議、など、その他笹川保健財団、木村看護教育振興財団、厚生労働省はオブサーバー）が共同でNursing Nowキャンペーン実行委員会を組織し、2020年5月8日・9日の企画および関連企画を検討している。（Nursing Now フォーラム・イン・ジャパンは、2021年1月20日・21日に延期予定。）

Nursing Now キャンペーン実行委員会：

- ・2019年5月11日（土）Nursing Now キャンペーン発足式
- ・2020年1月9日（木）Nursing Now キャンペーン委員会
- ・2020年3月4日（水）Nursing Now キャンペーン委員会
（新型コロナウイルス感染防止対策のため中止）

日本私立看護系大学協会は Nursing Now に賛同し、会員校に大学内外の色々な研修会・講演等の活動のパンフレットやリーフレットに、下記 Nursing Now のロゴマークをつけて、キャンペーンを盛り上げてもらうべく、会員校に Nursing Now のロゴマーク（JPG ファイル）を送付した。また、役員は、名刺に Nursing Now のロゴマーク入りシールを貼付しており、関係各所に名刺とともに Nursing Now キャンペーンを広めている。ロゴマーク入りの T シャツ等のグッズの販売も紹介している。

【Nursing Now】 ロゴマーク



実習費関係について

日本看護系大学協議会と異なる日本私立看護系大学協会活動として、経営・経済的な課題に対する活動が求められている。本協会では、その課題の1つとして、実習費に関する問題を取り挙げている。文部科学省・厚生労働省の看護関係部署の担当者に問い合わせをしたが、両省庁での回答は難しい、あるいは所轄当外内容とのことであったが、引き続き情報収集を行っている。

他の案としては、各地域の理事が実習費について、各地域で話し合う場をもち、金額の高騰抑制につなげる計画案がある。そのために必要な基礎データとして、日本看護系大学協議会との大学情報データベース調査の実習費分析を始めている。

私学助成の補助金獲得について

私学助成の補助金について小規模校が不利になっており、小規模校が多い医療系大学の中の看護学部（看護学科含む）や看護系単科大学などの補助金採択に関して、関係諸機関に課題の認識について情報収集している。しかし、具体的な対策となると当該機関の役員から情報収集するのは困難なため、「私学助成の補助金を獲得していくためにはどのようなことが重要か」に関して、日本私立学校振興・共済事業団職員に講演をお願いし、具体的な対策に関しては、補助金を獲得した大規模校と小規模校（単科大学）に講演をお願いすることになった。

その他の活動

その他、日本学術会議からの情報収集や厚生労働省の認知症対策に関する情報には小松浩子委員が、厚生労働省の地域医療関係や循環器・糖尿病等生活習慣病関係は河口てる子委員が情報収集を行っている。今後、高等教育を取り巻く社会環境は一層変化し、関係諸機関の情報収集、連携は重要度を増していくと考えられる。

4. 今後の課題

- ① 文部科学省、厚生労働省関係、日本学術会議をはじめ、日本看護系大学協議会、日本私立大学協会、日本私立学校振興・共済事業団、中央教育審議会、大学設置・学校法人審議会等諸機関の活動状況の把握をし、現状への認識及び今後の方針について理事会に報告する。
- ② 日本私立看護系大学協会が必要とする関係機関と関係を深め、情報交換、意見交換すると

もに、連携・支援に向けた働きかけをしていく

- ③ 専門職大学の動向に関して情報収集し、広報や研修会を通して加盟校に情報の提供を行う
- ④ 実習費に対する補助、費用抑制への活動等に対する文部科学省、厚生労働省等の情報収集、および合同データベースの中の実習費分析を行う
- ⑤ ナイチンゲール生誕 200 年を記念した看護界の Nursing Now キャンペーン活動
- ⑥ 日本看護系大学協議会と高度実践看護師のグランドデザイン委員会への参画を継続する
- ⑦ 小規模校の補助金関係について、各団体の活動に関する情報収集

6. 広報委員会

1. 趣旨

- ①本法人の目的の達成に寄与するため会報・その他刊行物の発行
- ②会員校への情報伝達及び会員校間の情報交換
- ③本法人の活動の外部への PR のためホームページの企画運営
- ④上記に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 波川 京子（川崎医療福祉大学）
- 山口 桂子（日本福祉大学）

3. 活動報告

広報委員会の事業は、①本法人の目的の達成に寄与するため会報・その他刊行物の発行、②会員校への情報伝達及び会員校間の情報交換、③本法人の活動の外部への PR のためホームページの企画運営、④上記に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告などです。会報やホームページを通して、会員校に役立つ情報の発信を担当しています。

1. 会報

会報は5月に第41号、11月に第42号を発行しました。第41号は、2018年度の委員会活動（大学教育委員会：大学新任教員と看護学実習指導・評価の研修会、研究活動委員会：質的研究セミナー2回と研究助成事業、国際交流委員会：グローバル人材育成研修会、大学運営・経営委員会：IR（Institutional Research）活用と看護系大学実態調査、渉外委員会：関係・看護系諸団体との連携、広報委員会：会報・ホームページ）の報告を掲載しています。2017年度文部科学省私立大学研究ブランディング事業採択の会員校の取り組み（北海道科学大学「北国高齢社会の生活カウンセラーの実践」、関東学院大学「防災・減災・復興学」）を寄稿いただきました。定例的な理事会報告、事務局からのお知らせ等を載せています。

11月の第42号は、巻頭の会長挨拶、社員総会と講演会、新規会員校紹介、研究助成事業、理事会報告、役員（任期2018年7月13日から2020年社員総会まで）紹介、事務局からのお知らせを掲載しました。

総会後の講演会は、看護学教育の分野別評価が開始される中、「専門分野の教育評価機構の成り立ち、運営・活動、今後の課題について」をテーマに設定し、先行して分野別教育評価を実施している機構から3題の講演いただきました。

1題目は、6年制薬学教育の保証と教育研究活動等の改善を促進することを目的に、2008年に評価機構を設立した一般社団法人薬学教育評価機構からです。2013年から75大学の薬学部を年間10～13校を対象に7年間で評価しています。2020～2026年度の評価は、学習成果基盤学習（outcome-based education）の概念に基づいて、学生が教育を受けて何ができるようになったかを、ポイントにすることが示されました。

2 題目は工学系、農学系、理学系の教育課程の審査と認定を 2001 年から実施している一般社団法人日本技術者教育評価機構（JABEE）からです。技術者教育の質の保証はシラバス、試験の成績（試験答案、レポート）、図書館や実験室などの設備、学内での教室会議や教授会の議事録も審査の対象にしています。審査は 4 つの共通基準（学習・教育到達目標の設定と公開、教育手段、学習・教育到達目標の達成、教育改善）と、認定分野の違いを補足する個別基準で実施しています。

3 題目は、2012 年から理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の分野別評価を行っている一般社団法人リハビリテーション教育評価機構からです。2017 年度から評価は 2 期目に入っています。指定規則改正を睨みつつ、評価内容を見直し、最低基準を満たしたから「適」ではなく、先進的な質保証、質の改善、向上に向けた取り組みを評価しています。

いずれの評価機構も書面審査と実地調査をし、結果はウェブサイト上で公表しています。

詳細は第 42 号に紹介しておりますので、ご覧ください。また、前号には掲載できなかった、社員総会後の上記講演に対するアンケート結果では、「満足」55%、「やや満足」40% と非常に高い満足度となっております。自由記載には「他の分野別評価機構の活動がよくわかった」「午前中の総会での審議との関連が強く、理解が深まった」「今後の看護学分野の評価を検討する上で、参考になる」などの意見が多く寄せられていました。

新規会員校紹介は、2019 年度に会員校となった 8 校（大手前大学国際看護学部看護学科、岐阜保健大学看護学部看護学科、四天王寺看護学部看護学科、清泉女学院大学看護学部看護学科、東都大学幕張ヒューマンケア学部看護学科、長野崇徳大学看護学部看護学科、長野保健医療大学看護学部看護学科、名古屋女子大学健康科学部看護学科）から、大学学科紹介を寄稿いただきました。

会員校教員の研究を後押しする 2019 年度研究助成事業の、看護学研究奨励賞英文抄録 8 題、国際学会発表助成英文抄録 3 題、若手研究者研究助成 8 題を掲載しました。

会報バックナンバーは日本私立看護系大学協会ホームページ（<https://www.spcnj.jp/>）から委員会活動→広報委員会→会報で、第 33 号～第 42 号を掲載しています。

2. ホームページ

ホームページは本協会と会員校を繋ぐツールです。関係団体からの情報、各委員会活動内容などを掲載しています。

1) 2020 年 会長年頭のご挨拶を掲載しています。

2) 本協会の沿革（成立ちと使命、年譜、歴代会長）を更新しました。

3) 会員校専用ページのトピックスで研修会、セミナーの動画を期間限定で配信しています。

①「研究セミナー」の動画配信（配信期間 2020 年 6 月 12 日まで）

日時：2020 年 2 月 15 日（土） 会場：大阪医科大学

講師：北海道大学 小田 博志 先生

②「カリキュラム構築に向けたスキルアップを目指して」の動画配信終了

日時：2020 年 1 月 13 日（月） 会場：アルカディア市ヶ谷

講師：聖路加国際大学 小山田 恭子 先生

京都大学 山田 剛史 先生

③「私立大学等改革総合支援事業への取り組み―地域社会への貢献―」の動画配信終了

日時：2019 年 10 月 28 日（月） 会場：アルカディア市ヶ谷

講師：藤田医科大学 金田 嘉清 先生、川上 友美 先生、都築 晃 先生

④「大学新任教員のための研修会 2019（北海道）」の動画配信終了

日時：2019 年 8 月 9 日（金） 会場：ACU-A（アスティ 45）

講師：日本赤十字広島看護大学 学長 小山 眞理子 先生

長野保健医療大学 副学長・学部長 井部 俊子 先生

⑤「看護系大学における国際交流教育の成功に向けて」の動画配信終了

日時：2019 年 10 月 6 日（日） 会場：東京ガーデンパレス

講師：佐久大学信州短期大学部 廣橋 雅子 先生

聖路加国際大学 麻原 きよみ 先生

国際医療福祉大学 森山 ますみ 先生

⑥「研究セミナー」の動画配信終了

日時：2019 年 9 月 21 日（土） 会場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

講師：お茶の水女子大学 名誉教授 波平 恵美子 先生

⑦社員総会付帯事業（講演会）の動画配信終了

日時：2019 年 7 月 12 日（金） 会場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

講師：一般社団法人薬学教育評価機構 運営委員 入江 徹美 氏

一般社団法人日本技術者教育認定機構 専務理事 三田 清文 氏

一般社団法人リハビリテーション教育評価機構 理事 陣内 大輔 氏

4) 2019 年 7 月から 2020 年 2 月末までの新着情報

2019.07.03：2019 年度委員会等活動計画一覧掲載

2019.07.04：2019 年度社員総会議案及び報告事項を掲載

2019.07.25：研修会「私立大学等改革総合支援事業への取り組み―地域社会への貢献―」申し込み開始

2019.08.14：保健師助産師看護師国家試験における試験問題の公募について（情報提供）

2019.09.13：研修会「大学新任教員のための研修会 2019（福岡）」申し込み開始

2019.10.04：「看護系大学に関する実態調査」について

2019.10.04：「私立看護系短期大学の教育等に関する実態調査」について

2019.10.09：「カリキュラム構築に向けたスキルアップを目指して」申し込み開始

2019.10.10：日本国際看護学会 2019 年度西日本研修会のお知らせ（情報提供）

2019.10.29：「保健師助産師看護師法第 37 条の 2 第 2 項第 1 号に規定する特定行為及び同項第 4 号に規定する特定行為研修に関する省令の施行等について」の一部改正について（情報提供）

2019.11.07：「研究セミナー」申し込み開始

2019.11.22：「カリキュラム構築に向けたスキルアップを目指して」申し込み締切

2020.02.06：「カリキュラム構築に向けたスキルアップを目指して」動画配信開始

2020.02.10：「役員選出選挙スケジュール」の概要についてのお知らせ

2020.02.18：事務局の問合せ受付時間変更について（新型コロナウイルス対応のため）

2020.02.26：一般社団法人日本私立看護系大学協会 役員選挙公示について

5) 委員会活動

大学教育委員会、研究活動委員会、国際交流委員会、大学運営・経営委員会、渉外委員会、広報委員会の活動内容と2019年度活動計画を掲載しています。

4. 今後の課題

会報、年報、その他刊行物を効果的に活用して、その内容の整理及び充実を図る。